# 長崎県文化財調査報告書 第145集

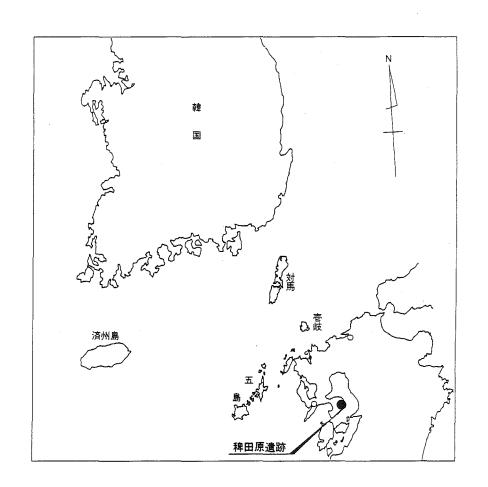
# 稗田原遺跡Ⅱ

1 9 9 8

長崎県教育委員会

# 長崎県文化財調査報告書 第145集

# 稗田原遺跡Ⅱ



1 9 9 8

# 長崎県教育委員会



遺跡近景

▼土壌採取地点(10地点A)



土壌堆積状況

土壌採取地点(10地点B)▲

稗田原遺跡は、島原市の北部、稗田町に分布しています。近くには畑中遺跡、礫石原遺跡、長貫遺跡等の広大な縄文時代晩期の遺跡が分布しています。この地は、昭和30年代から40年代にかけて、地元の研究家古田正隆氏により調査され、初期農耕についての問題提起がなされた場所でもあります。その後何回かの発掘調査が行われながらも、いまだ古田氏が提起された初期農耕についての明確な回答はでていないというのが現状ではないでしょうか。

今回調査に至った経緯は、一般県道礫石原松尾停車場線の拡幅工事が計画され、試掘調査の結果、遺跡の範囲が判ったためであります。

長崎県教育委員会は、この遺跡の重要性を考え、島原振興局建設部道路 課と協議を重ね、遺跡の所在が判った範囲で、発掘調査を実施したもので す。

この調査報告書が本県の埋蔵文化財についての理解と愛護の精神を深め、学術、教育、文化財保護のために広く活用されることを念願するものであります。

発掘調査の実施にあたって御理解と御協力をいただきました地元の関係の皆様と、炎天下のもと、作業に従事して下さいました皆様に対し、衷心より感謝申し上げます。

平成10年3月

長崎県教育委員会教育長

中川 忠

- 一. 本書は、一般県道礫石原松尾停車場線拡幅に伴って実施した長崎県島原市稗田町に所在する稗田 原遺跡の緊急発掘調査報告書である。
- 二. 長崎県教育委員会が調査主体で、調査期間は次のとおりである。

試掘調査 平成8年7月3日~7月12日 本調査 平成8年9月9日~11月1日 補完調査 平成9年3月7日~3月14日

三. 長崎県教育委員会文化課の調査関係者は以下のとおりである。

試掘調查 村川逸朗(文化財保護主事)、荒木伸也(文化財調査員)

補完調査 村川逸朗(文化財保護主事)、小松 旭(文化財保護主事)

- 四. 本書の執筆は第1部を村川が担当した。自然化学分析は、V. 長崎稗田原関連遺跡におけるプラントオパール分析を宮崎大学農学部藤原宏志先生に、VI. 雲仙火山北麓の稗田原遺跡のテフラ層序の検討を長崎大学教育学部長岡信治先生・日本火山学会会員田島俊彦先生にそれぞれお願いし玉稿をいただいた。
- 五. 土層の層位は、 ${\rm III}\, 2$ . ②と ${\rm V}\, 0$ 自然科学分野では、一層づれている。すなわち、 ${\rm III}\, 2$ . ②では、 ${\rm 4}$  層が六ッ木火砕流となるが、 ${\rm V}\, 0$ 自然科学分野では  ${\rm 3}\,$  層が六ッ木火砕流となる。

六. 本書の編集は村川が行った。

# 本 文 目 次

			貢
Ι	調査	をに至る経緯	1
П	遺跡	がの地理的歴史的環境 ······	"
Ш	調	查	
	1.	試掘調査	4
	2.	本調査	"
		①調査概要	"
		②土 層	"
		③遺 構	"
		④各調査区ごとの遺構・遺物の出土状況の特徴	"
		⑤遺物	"
IV	ま	と め	37
V	長崎	奇稗田原関連遺跡におけるプラントオパール分析	41
VI	電力	山火山北麓の稗田原遺跡のテフラ層序	49
VI	去Ⅱ	川久山北鹿の怪田塚風跡のテテラ暦庁・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	49
		插 図 日 次	
第	1 図	稗田原遺跡位置図	3
第2	2 図	試掘調査壙位置及び遺構・遺物検出状況	5
第	3 図	土層図	7
第4	4 図	遺構全体図及び1区3層、4層上面遺構検出状況 9~	~10
第5	5 図	2区、3区遺構検出状況	
第 (	6図	7 区遺構及び遺物検出状況	~14
	7 図	10区、11区遺構検出状況	~16
	3 図	6区、9区遺構検出状況	17

第9図	出土土器①・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	18
第10図	出土土器②	19
第11図	出土土器③	20
第12図	出土土器④・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	21
第13図	出土土器⑤	22
第14図	出土土器⑥・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	23
第15図	出土石器①	27
第16図	出土石器②	28
第17図	出土石器③	29
第18図	出土石器④	30
第19図	出土石器⑤	31
第20図	出土石器⑥	32
第21図	出土石器⑦・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	33
第22図	出土石器⑧	34
付図 1	大野原遺跡試掘調査出土土器検体資料	39
付図 2	畑中遺跡出土土器検体資料	39
•		
	表目次	
第1表	遺跡地名表	2
第2表	各区出土の土器①	24
第3表	各区出土の土器②	25

第4表 各区出土の土器③第5表 各区出土の石器①

第6表 各区出土の石器②

26

35

36

# 図 版 目 次

- 図版1 遺跡遠景・調査風景
- 図版2 1区・2区遺構検出状況等
- 図版3 3区・5~7区・10区遺構検出状況等
- 図版4 10区・11区遺構検出状況等
- 図版5 出土土器①
- 図版 6 出土土器②
- 図版7 出土土器③
- 図版8 出土土器④
- 図版9 出土土器⑤
- 図版10 出土土器⑥
- 図版11 出土土器⑦
- 図版12 出土石器①
- 図版13 出土石器②
- 図版14 出土石器③
- 図版15 出土石器④

### Ⅰ 調査に至る経緯

一般県道礫石原松尾停車場線の改良工事に伴い平成4~6年にかけ調査を実施してきた。今回の調査は工事の延伸に伴い、前回調査地点から西側の部分を調査したものである。試掘調査を実施した後、遺跡の遺構及び遺物の分布密度等を確認し、必要と判断された範囲で本調査を実施した。

## Ⅱ 遺跡の地理的歴史的環境

遺跡が所在する稗田町は、もとは島原市三会木崎名の一部で、島原半島の東部、雲仙山系北東麓の 火山性扇状台地に位置し、東は有明海に面している。現在この海岸部には建設資材等の貨物輸送の急 増に対して、昭和44年から貨物埠頭を建設し、島原新港と呼ばれている。

この三会原には、高燥域に所在する礫石原遺跡を初めとして、縄文時代晩期の遺跡が多い。海岸部に向かって標高が下がるにしたがい、上油堀、下油堀、長貫A、長貫B、南楠沢、大塚後、津吹、三会中学校、寺中A、寺中B、下宮、平成3年に調査された畑中遺跡、そして、本報の稗田原遺跡等がある。この三会原全体に縄文時代晩期の遺跡が、ほぼまんべんなく分布している。平成8年度の調査でわかったことであるが、稗田原遺跡では、この縄文時代晩期の包含層の下で縄文時代中期から後期にかけての時期の火砕流の堆積が確認された。この火砕流は、隣の畑中遺跡でも確認されており、恐らくは三会原全体に広がっていたと思われる。火砕流が堆積した後、表面が土壌化するか、火山灰の堆積があるかして、栽培、ないしは耕作するに足る土壌が醸成され、遺跡が形成されたものであろう。

なお、本報告書、第2部の自然化学分析での、宮崎大学農学部藤原宏志先生、並びに長崎大学教育学部長岡信治先生によると、この火砕流は「六ッ木火砕流」であり、C14年代によると3,620±60yrBPの値がでており、この火砕流の下からかなりの量の稲のプラントオパールが検出されている。この自然科学分析の結果によれば、この「六ッ木火砕流」の下層でも稲の栽培が行われていた可能性がある。

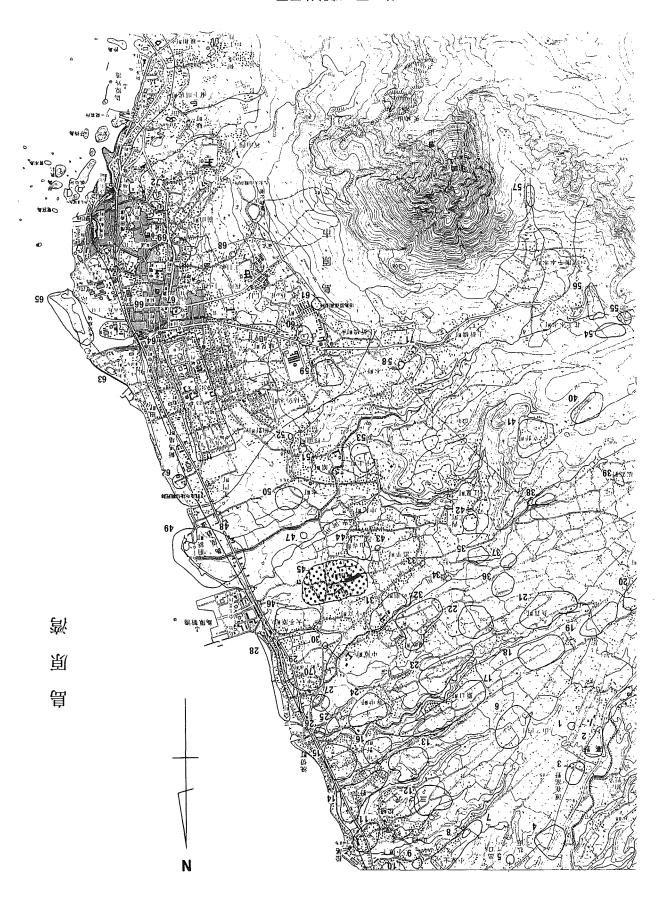
弥生時代では、弥生時代から古墳時代の遺跡として、山崎遺跡、沖田遺跡、沖田海中遺跡等がある。また、古墳時代の長塚古墳等も所在している。

三会原の北側、中野川と西川の河口部の沖積地上には、中野川遺跡と西川遺跡がある。これらの遺跡の北側の海岸段丘上には景華園遺跡があり、この沖積地上の2遺跡が景華園遺跡の生産基盤である可能性も考えられる。景華園遺跡は、弥生時代中期を主体とし、遺構としては甕棺、箱式石棺墓、支石墓(2基)等が確認されており、出土遺物は、銅鏡(?)、銅剣、銅鉾、管玉等がある。県下の遺跡発見の記録としては最も古く、元禄12年に当時の藩主松平忠房が大石を動かしたところ、下から銅剣2本が出土したと、島原藩主松平家の記録『深耕世紀』に記してある。次に昭和5年、甕棺墓地

## 第1表 遺跡地名表

District 1	-1-m-4-tax	h #	7 -t- 11h	26 ml	ula lila	n+ /b	Ht: +2
地図No.	市町村No.	名 称 山ノ内上横穴古墳	所 在 地	種別	立地	時代	備考
2	31—27 15	上源在高野遺跡	カー カ	古 墳 遺物包含地	C Pata	古墳	
3	15	下源在高野遺跡	" 人町石子工原仕同町 " " 字下源在高野	退 初 己 吕 地	丘   陵     台   地	縄 文	
4	13	上松高野遺跡	ル ル 字上松高野	"	口ル	弥 生	
5	31	排 山 横 穴 古 墳	ル 東古閑拂山		平 地	古 墳	
6	24	灰ノ久保遺跡	" 米口科が山 ル 三之沢名字灰ノ久保	遺物包含地		組 文	
7	19	小原上遺跡	" 一といわすめ、人味 " " 字小原	周17日日地	11. 192	<i>川</i> .	
8	36	国土神社裏横穴	ル 大三東小原上	横 穴	"	古 墳	
9	33	小原下B地点遺跡	" 八一来小家工	遺物包含地		縄文	
10	18	小原下遺跡	n 三之沢名字和田・木下	<i>JE 171</i> C F 7C	丘陵	<i>II</i>	
11	20	松尾遺跡	n 松崎名字松尾	"	1L 1X	古 · 奈	
12	21	山ノ内遺跡	n 三之沢名字松崎上,上松崎	"	"	"	
13	23	上一野遺跡	n アナー野, 下蓮輪	"	"	縄 文	
14	22	一 野 遺 跡	〃 〃 宇野田, 堂ノ前, 下野, 鼻ノ崎	"	"	弥・古	
15	31	景 華 園 遺 跡	島原市(三会)中野町高城元	墳 墓	海岸段丘	弥 生	
16	2	上中野遺跡	〃 ( 〃 )上中野,野畑,久保	遺物包含地		弥 ・ 古	
17	3	原口B遺跡	『原口町、屋敷高野、北長嶺	"	丘 陵	"	
18	4	〃 A 遺 跡	〃 ( 〃 ) 尖石,原口上,堂の坂,葛龍沢,原口沢	"	台 地	縄 · 弥	
19	5	下油 堀 遺 跡	〃 ( 〃 )油堀町下油堀	"	河岸段丘	"	
20	6	上 油 堀 遺 跡	〃 ( 〃 ) 〃 上油堀(一部有明町にかかる)	"	η	縄 文	
21	9	長 貫 A 遺 跡	〃 ( 〃 )長貫町楢高野	遺物包含地	"	先・縄	
22	10	ル B 遺 跡	〃 ( 〃 )仁田平,津吹町上大高野	11		縄・弥	
23	11	寺 中 A 遺 跡	〃 ( 〃 )寺中町大高野別れ道	"	丘 陵	弥 生	
24	12	" B 遺 跡	〃 ( 〃 )尾崎,湯の元,内田	"		弥 ・ 古	
25	13	寺 中 城 跡	〃 中野町城の鼻	城 跡		中 世	
26	14	中野川遺跡	〃 (三会)中野町中野川川床	遺物包含地		弥 生	
27	15	西川遺跡	〃 (〃)亀の甲町	"	平 野	"	
28	16	三会下町海中遺跡	〃 ( 〃 )三会町(海中)	"	海 底	縄・弥	
29	17	畑 中 遺 跡	〃 ( 〃 )中原・亀の甲、御手水町	"	平 地	弥 生	
30	60	大 塚 古 墳	〃 ( 〃 )中原町大塚		丘 陵	古 墳	
31	18	三会中学校遺跡	〃 ( 〃 )下富,出の川町金万寺木崎	遺物包含地		縄 文	
32	19	津 吹 遺 跡	n (n)津吹町三段畑	"	丘 陵	縄・弥	
33	20	鬼の家古墳	" ( " ) 出の川町出の上	古 墳	"	古 墳	
34	21	人 塚 古 墳	ル (ル) ル 宇人塚	"	"	"	
35	22	大塚下遺跡	n (n) n n	遺物包含地		中世	
36	23	南楠沢遺跡	"(")南楠沢	"	"	弥 生	
37	24	大塚後遺跡	n (n)大塚後	"	"	縄 文	
38	25	<u> </u>	"(")広高野町尻無	"	"	//	
39	26	大タブ沢遺跡	リ (リ) リ 大タプ沢	"	// "	縄・中	
40	27	弓 弦 遺 跡	n (杉谷) 立野町弓弦	"		縄 文	
41	28	立野遺跡	n (n) n	"	. //	"	
42	30	坪 浦 遺 跡 まだれいな銘キリシタン碑	" (") 西町坪浦 " (") 山寺町867	り よりこわい前で	台 地	·c 111	旧松台
43			л (л) 山寺町字山崎	キリシタン墓碑 遺物 包含地	"		県指定
45	31 32	中 田 原 遺 跡	島原市 (三会) 稗田町	遺物包含地		弥・古縄・弥・近	
46	33	下宮遺跡	川 (川)下宮町園田、焼木	週初已古起	平 野	刷 : 沙、江	
47	61	長 塚 古 墳	" (")「宮町園田, 飛不 " (杉谷)山寺町字長塚		平 地		
47	42	沖田遺跡	// (杉谷)田守町子長塚 // ( // )前浜町沖田	遺物包含地		<ul><li>古 墳</li><li>弥 ・ 古</li></ul>	
49	43	沖田海中遺跡	" (") 即获购件曲	<u>退物包含地</u>	海 底	沙小 · 白	
50	43	道田遺跡	" (") " " " (杉谷) 本町道田		平地	弥 生	
51	39	熊野神社遺跡	" (2) 在 2 年 2 年 2 年 2 年 2 年 2 年 2 年 2 年 2 年 2	製鉄跡		平・中	
52	40	熊野神社窯跡	" (") " " " " " " " " " " " " " " " " "	窯 跡	丁町	近 世	
53	34	釘 原 遺 跡	ル (ル) 宇土町釘原	遺物包含地丘陵	"	弥・古	
54	35	平の山A遺跡	n (n) 北千本木町平の山	別	"	縄 文	
55	36	肥賀太郎遺跡	" ( " ) 肥賀太郎 北千本木町	"	"	<i>II</i>	
56	37	平の山B遺跡	" ( " ) 心質 太郎 「右下本木町	"	"	"	
57	52	矢 櫃 遺 跡	ル (ル)南千本木町矢櫃	"	"	"	
58	62	小塚古墳	〃 ( 〃 ) 六ツ木町辰ノ元	古 墳	n	古 墳	
59	38	丸 尾 城 跡	ル 本光寺町本光寺内	城 跡	"	中世	
60	50	小 山 館 跡	" 小山町	館跡	n	"	
61	51	旧島原藩薬園跡	″ ″ 4701ほか	薬 園 跡	n	近 世	国指定
62	44	沖田畷遺跡	沖田畷新馬場町・北門町	遺物包含地(祭祀遺跡)		古 墳	
63	45	長 浜 台 場 跡	<b>ル 新田町長浜</b>	台 場 跡	平 野	近 世	
64	46.	森岳城跡	<b>" 城内1丁目,2丁目</b>	城 跡	11	"	
65	47	大 手 浜 遺 跡	〃 新田町大手浜	遺物包含地	海岸	和 ~ 占 平 ~ 近	
66	48	浜 の 城 跡	ル 新町1丁目			近 世	
67	49	崇台寺のキリシタン墓碑	<b>〃</b> 萩原 1 丁目1224番地崇台寺	キリシタン墓碑		11	
68	63	笹 塚 古 墳	" 上の原3丁目,上の原2丁目,上の原1丁目	古 墳	"	古 墳	
69	53	上 の 原 遺 跡	" 自土町	遺物包含地		弥 生	
70	消滅	西川古墳	〃 (三会)亀の甲町		平 野	古 墳	
71	"	折 橋 遺 跡	〃 (杉谷)下折橋町		丘 陵	弥 生	
72	n	眉 山 焼 窯 跡	ル 八幡町	窯 跡	"	近 世	

図置か椒黄 図 「 葉



から狭鋒銅鉾2本、硬玉製勾玉1個、碧玉製管玉15個、布片1片が出土し、考古学雑誌第21巻8号に『甕棺内新出の玉類及布片等について』の題で島田貞彦によって報告された。昭和32年の大水害の折りには、甕棺墓とともに銅剣3本、玉類、貝輪、扁平片刃石斧、鉄製鋤先等が出土している。大石は支石墓であり、青銅器の出土もあるところからこの地域の中心的な遺跡であろう。

## Ⅲ 調 査

#### 1. 試掘調査

#### (1) 調査

調査は、遺跡内の工事予定地の買収済用地を手始めとして、平成8年7月3日~同年7月12日に 範囲確認調査を実施した。工事予定区域内に2m×2mの試掘壙を12箇所設定し、東から順に着 手した。

#### (2) 土層

#### (3) 遺構

TP2・11で柱穴が確認された。

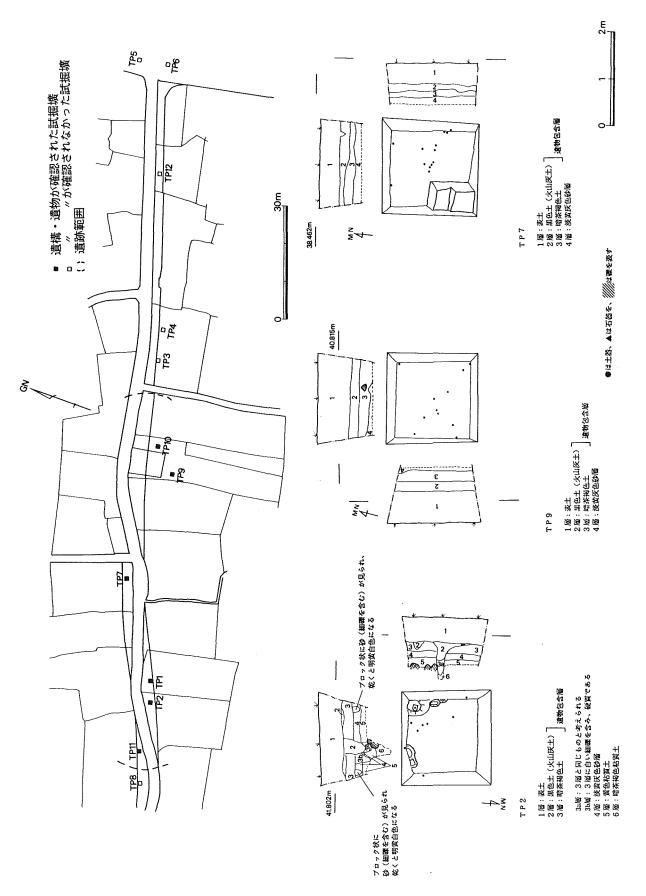
#### (4) 遺物

遺物は、TP1・2・7、9~11の試掘壙から、縄文時代晩期の土器・黒耀石製剥片等が出土した。

#### (5) まとめ

以上の結果から判断すると

- ① 縄文時代晩期の遺物を中心とする遺物包含層が確認された。
- ② 柱穴が確認され、住居跡等の遺構の存在も考えられる。
- ③ TP9付近には弥生時代の包含層も確認された。



第2図 試掘調査壙位置及び遺構・遺物検出状況

#### 2. 本調查

#### ① 調査概要

範囲確認調査の結果により範囲を確定し本調査を実施した。要調査面積は、1,270㎡になる。

調査区は、西端の道路基準杭を起点とし、東側方向に4m方眼のグリッドを設定した。蛇行する 道路を直線的に改良するため、それぞれ三日月型のブロックができる。ブロックごとに西から東に 向かって1区から11区の番号を付けた。調査は、西側調査区から重機による表土剥ぎを行った後、 西から東に向けて掘り下げを行った。

今回は、遺物取り上げ方法として、平板は使わずに光波距離計を使用し、視準する遺物の距離と 基準となる視準点からの角度、標高を台帳に記入し、そのデーターをパソコンに入力・処理し、プロッターで打ち出してドットマップ作成する方法を用いた。

#### ② 土 層

土層は、1層;表土層、2層;黒色砂質土層(弥生・古墳時代遺物包含層)、3層;暗茶褐色土層(縄文時代晩期包含層)、4層;黄灰色砂層(六ッ木火砕流)、無遺物層である。5層;黄褐色粘質土層(アカホヤ)で、試掘時と同じである。但し、第3図の土層図で示したように、この5層;黄褐色粘質土層(アカホヤ)の上に土壌化した暗褐色土層が認められる。今回、この暗褐色土層からイネのプラントオパールが検出された。

#### ③ 検出遺構

遺構としては、溝状遺構と柱穴群、集石遺構等を発見した。

④ 各調査区ごとの遺構・遺物の出土状況の特徴

1区、2区、7区等に於いて、柱穴や溝等の検出があり、それぞれの区の試掘壙周辺に於いて生活の痕跡を認めることができた。ただ、掘り込み面等を確認していないので確定したわけではない。遺物の時期的な出土状況は、ほぼ全面的に晩期の遺物が出土するものの、弥生と古墳時代の遺物は10・11区に限定された形で出土する。

石器では、7区で、集石遺構や、大小のハンマーストーン、台石、黒曜石製剥片・石核等が出土 していることから、この場所で石器製作を行った可能性がある。

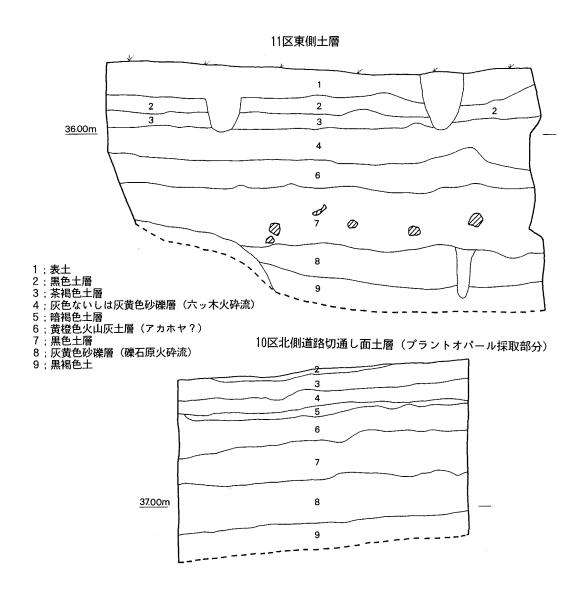
#### ⑤ 出土遺物

遺物は、縄文時代晩期、黒川式期併行期の深鉢・浅鉢・条痕文土器・扁平打製石斧・安山岩製スクレーパー等が出土した。

#### 1. 縄文土器

出土した土器は、縄文時代晩期前半の土器等がある。深鉢形土器、浅鉢形土器、組織痕土器、等がある。

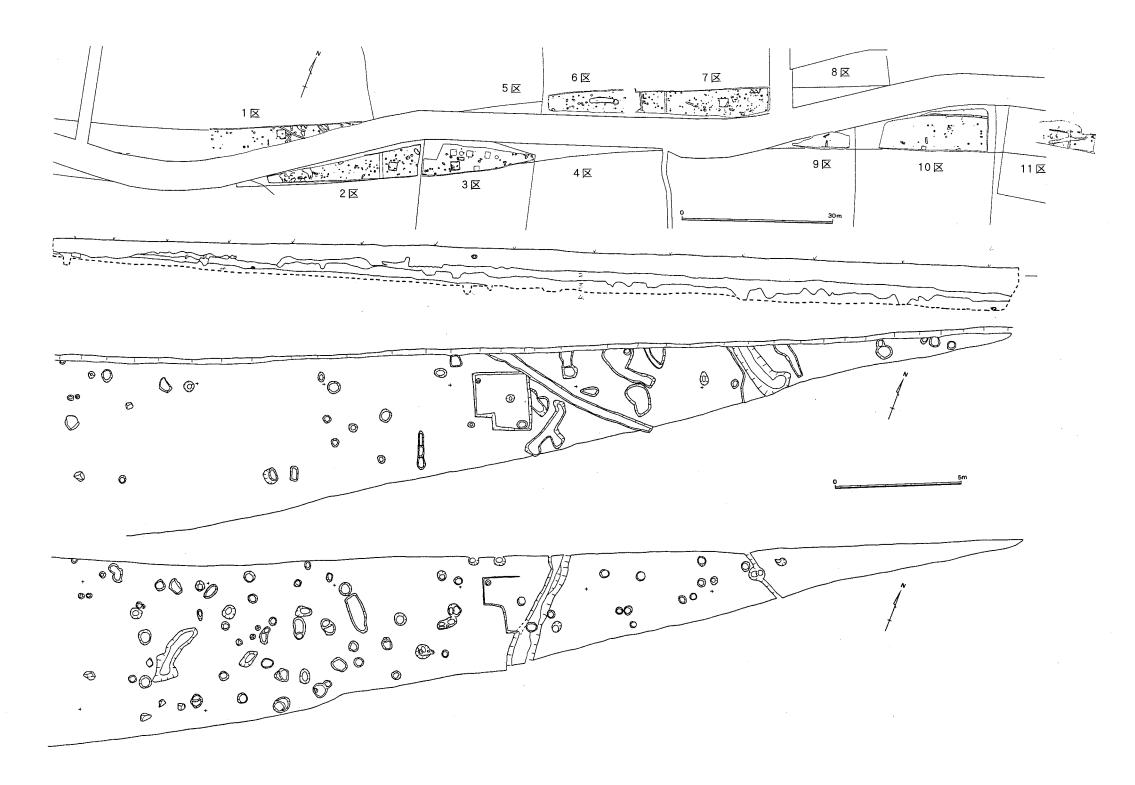
南串山町の国崎遺跡や、東彼杵町の白井川遺跡等の分類や、出土を参考に、深鉢形土器を、A類(タガ状口縁をもつもの)、B類(口縁部にリボン状及び鰭状突起をもつもの)C類(「く」字状口縁をもつもの)、D類(組織痕土器)に分け、同じく浅鉢形土器をA類(口頚部が短く立ち上が



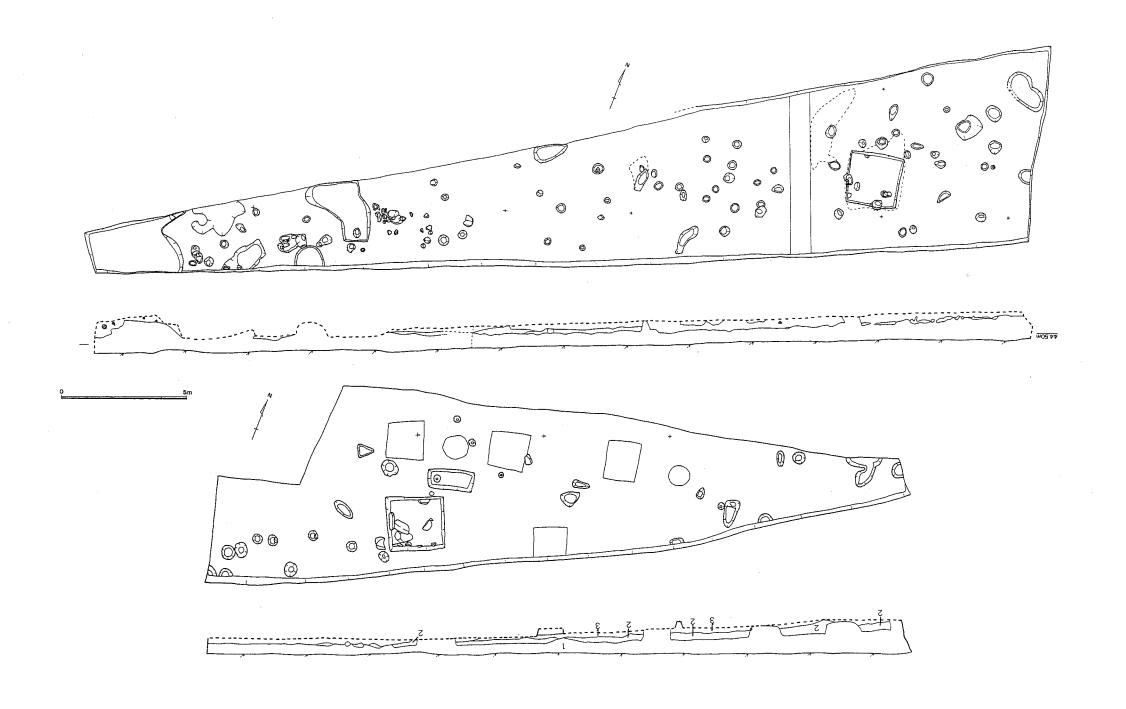
第3図 土層図

り肩部に最大径をもつもの)、B類(口径と肩部の径がほぼ同じもの)等に分ける。A, B双方と もリボン状突起を持つものと持たないものがあるが、破片なので確定的なものではない。

石器では、石鏃、安山岩製スクレーパー、黒曜石製スクレーパー、縦長剥片、石核等がある。外に 磨製石斧、打製石斧、すり石、砥石、ハンマーストーン、台石等がある。



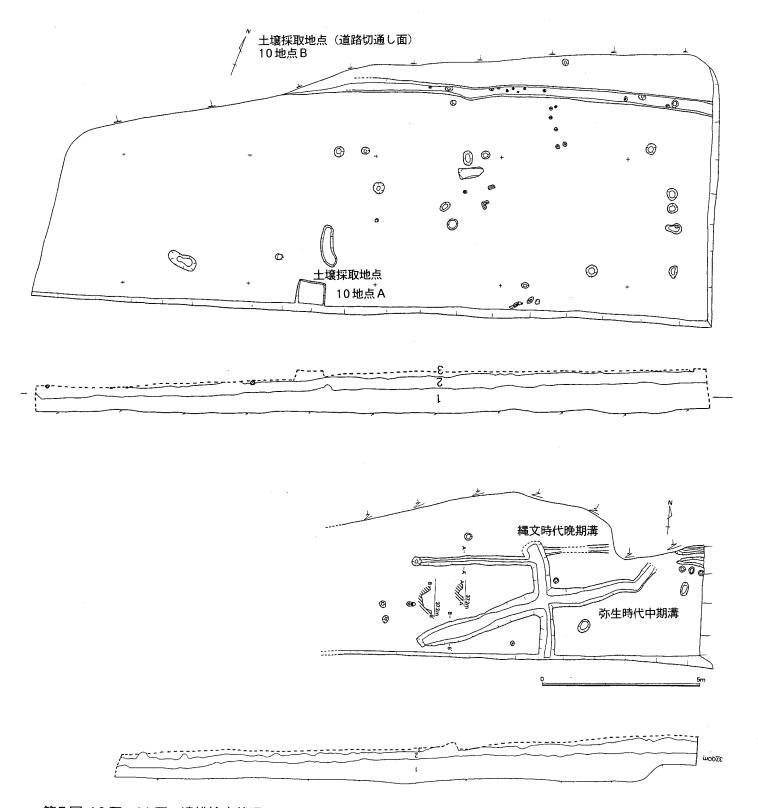
第4図 遺構全体図及び1区3層, 4層上面遺構検出状況



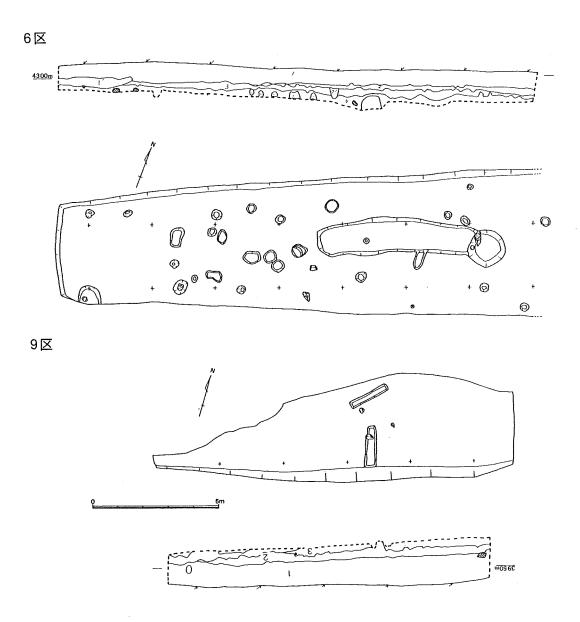
第5図2区、3区遺構検出状況



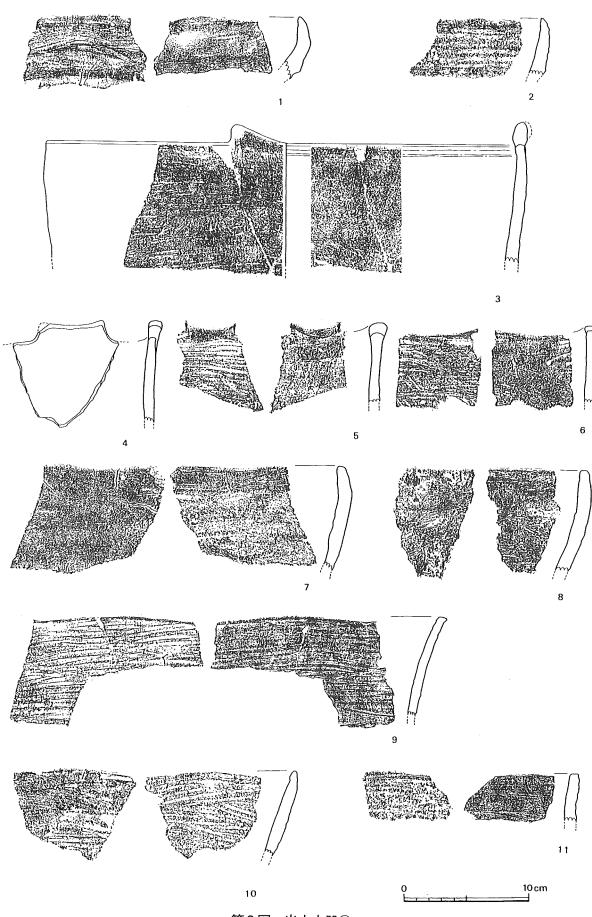
第6図 7区遺構及び遺物検出状況



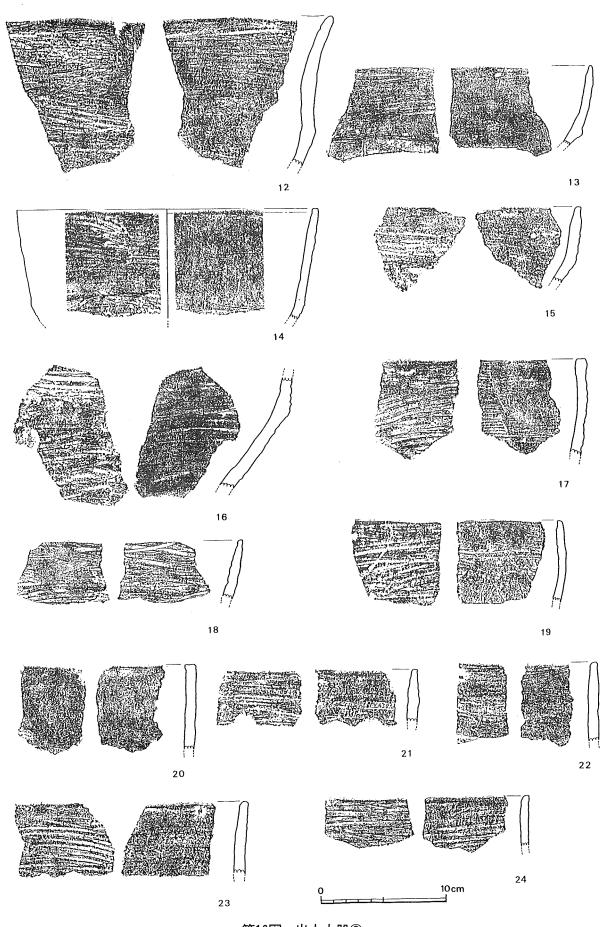
第7図 10区、11区 遺構検出状況



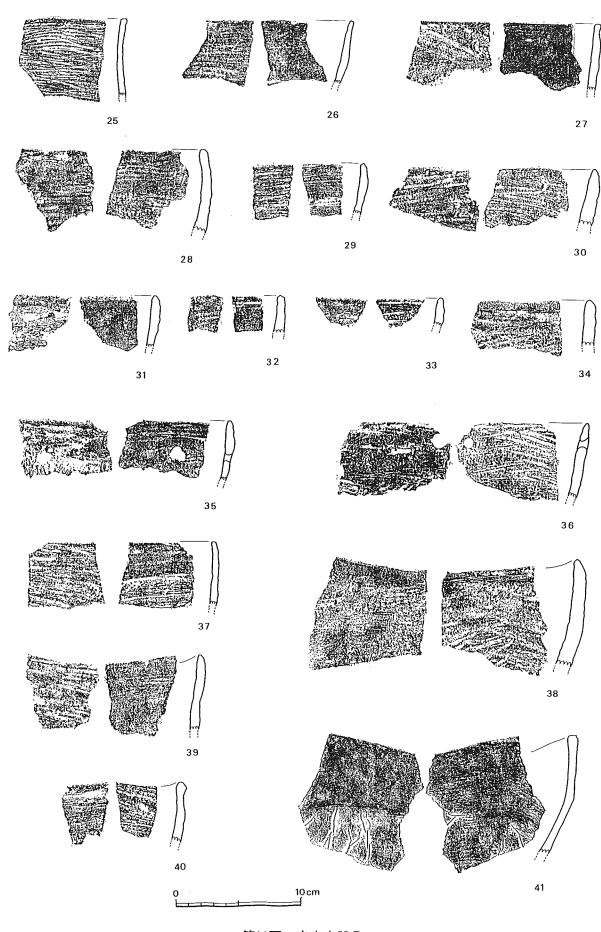
第8図6区、9区遺構検出状況



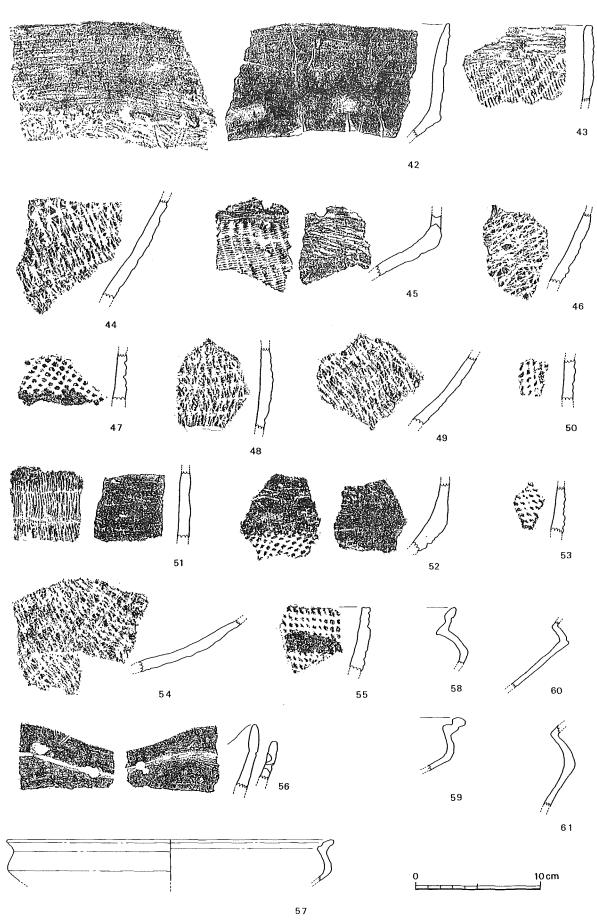
第9図 出土土器①



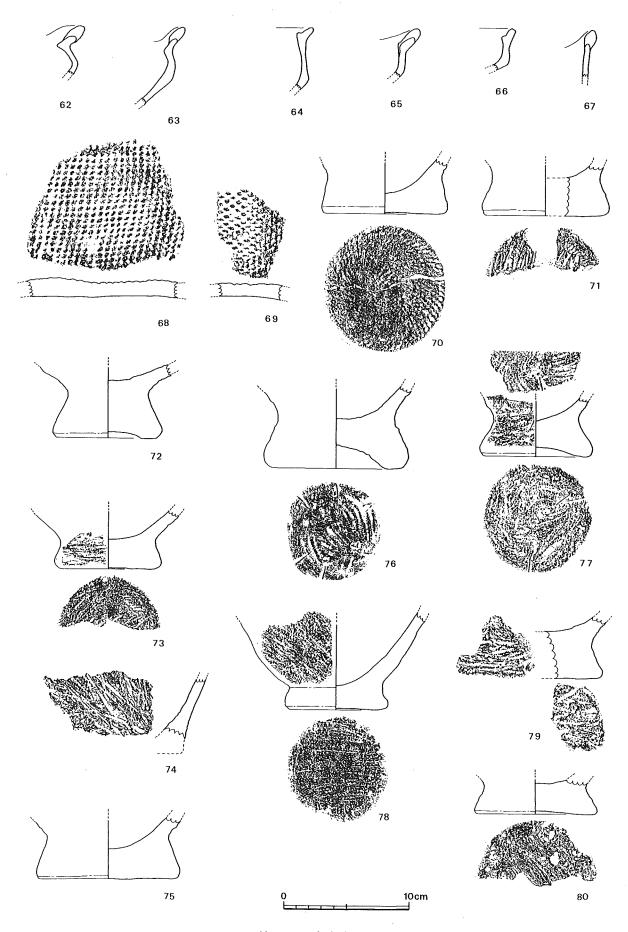
第10図 出土土器②



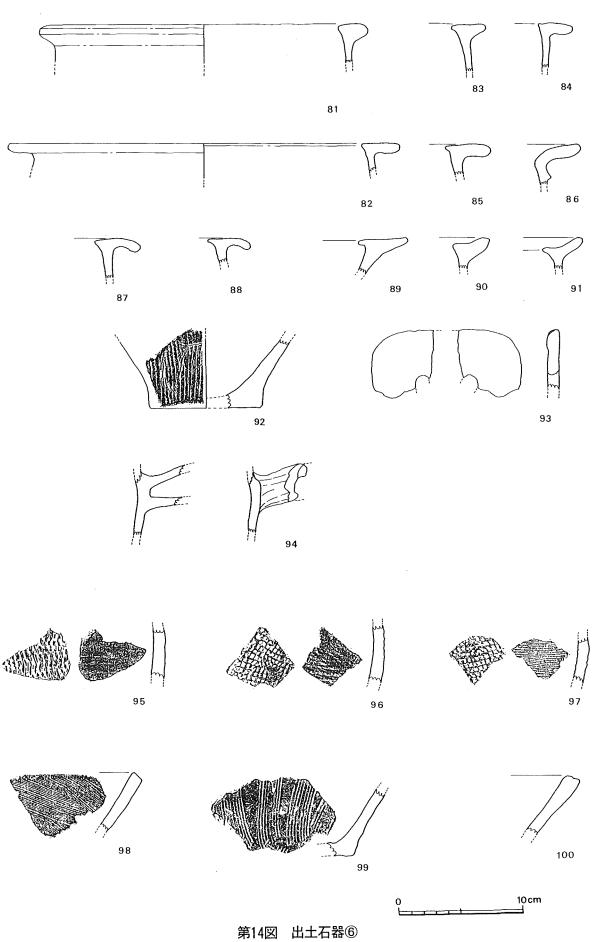
第11図 出土土器③



第12図 出土土器④



第13図 出土土器⑤



## 第2表 各区出土の土器①

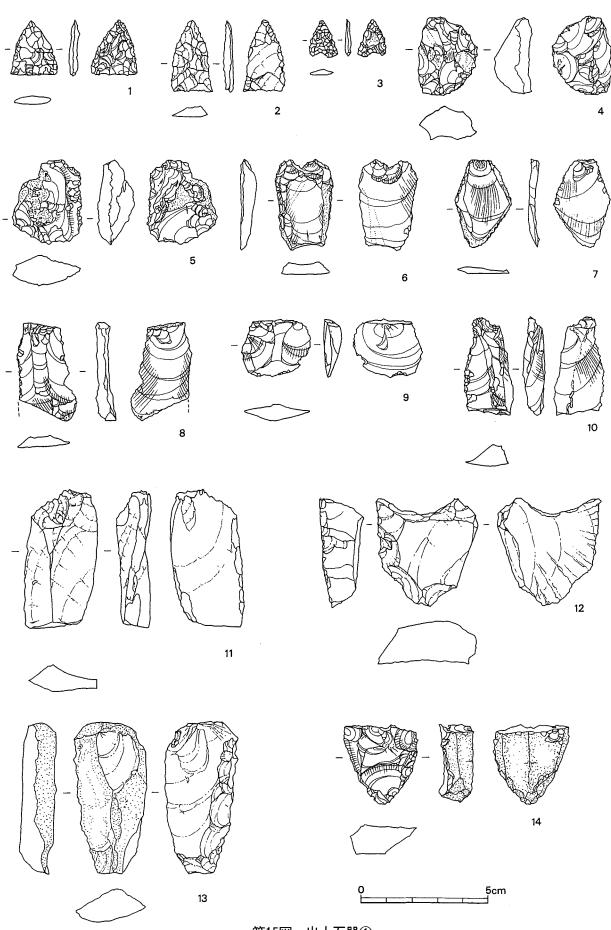
番号	層位	地区・取上No.	器種	色 調(外・内)	調整(外・内)	備考
1		3 · 278	深鉢	暗赤橙・黄灰	板ナデ・ナデ	沈線ナシ
2		7 • 482	"	黒灰・黒	条痕・ナデ	丁寧ナデ
3		3・カクラン+ 155	"	黒褐・黄褐	条痕ナデ・条痕ナデ	
4		7 • 161	"	黒灰・灰黒	" • "	丁寧ナデ
5		9 • 304	"	黒灰・黄灰	条痕・ナデ	内;砂粒の移動
6		9 • 37	"	灰黄・灰褐	// • //	
7		2 • 15	"	暗灰黄・灰黄	ナデ・条痕ナデ	内;粗雑なナデ
8		10 · 1266	"	黒・暗灰褐	条痕・条痕ナデ	外;スス付着
9		7 • 283	"	暗褐・黒灰	// • //	
10		3 • 233	"	暗黄橙・黒灰	条痕・板ナデ	
11		7 • 356	"	暗灰黄・黒灰	条痕・ナデ	
12		2 • 16	"	暗褐・灰黄	条痕・条痕ナデ	
13		7 • 429	"	黒・暗赤	条痕ナデ・ナデ	丁寧ナデ
14		7 • 388	"	暗黄褐・黄灰	条痕・ナデ	
15		10 · 1069	"	淡黄灰・淡黄	// • //	
16		3 • 63	"	黒灰・黄灰	条痕・条痕ナデ	
17		10 · 1348	"	黄・灰	// • //	
18		2 • 165	"	暗赤・赤橙	条痕・条痕	
19		7 • 430	"	淡黄灰・淡灰黄	条痕・条痕ナデ	
20	<u> </u>	6 • 102	"	淡黄橙・黄橙	条痕ナデ・ナデ	
21		6 • 12	"	淡黄橙・灰黒	条痕・条痕ナデ	
22		11 • 292	"	灰黄・灰黄	<i>"</i> • "	
23		2 • 2	"	灰黒・黒灰	// • //	
24		7 • 386	"	暗黄・黒	条痕・条痕	
25		7 • 445	"	黒・灰黄	条痕・ナデ	細かな条痕
26		10 · 1118	"	灰黄・淡灰黄	条痕ナデ・ナデ	
27		7 • 391	"	淡黄灰・淡黄灰	"•"	内;丁寧ナデ
28		3 • 373	鉢	暗赤褐・灰黄	条痕ナデ・条痕ナデ	
29		10 • 629	"	灰褐・黒褐	条痕・条痕	
30		3 • 365	深鉢	灰黄・黄灰	"•"	
31		10 · 1001	"	淡黄橙・暗灰	条痕・ナデ	
32	<u> </u>	3 • 240	"	〃 ・淡黄橙	" • "	1.00
33		7 • 12	"	淡灰黄・黄灰	条痕撫で・条痕	
34		2 • 24	"	灰黒・黒灰	条痕ナデ・ナデ	
35		7 • 24	"	黒褐・灰褐	組織・ナデ	内外からの穿孔
36		3・カクラン	"	暗灰黄・赤褐	条痕・条痕	"
37		7 · 328	"	暗褐・暗褐	条痕・条痕ナデ	
38		3 · 365	"	暗灰・暗灰	条痕ナデ・条痕ナデ	内;粗雑なナデ
39		3 · 356	"	黄灰・淡黄	条痕・条痕ナデ	
40		9 • 362	"	暗褐・灰黄	条痕・条痕	
41		2 • 9	鉢	黒灰・暗灰	ナデ・ナデ	内;細条痕ナデ

## 第3表 各区出土の土器②

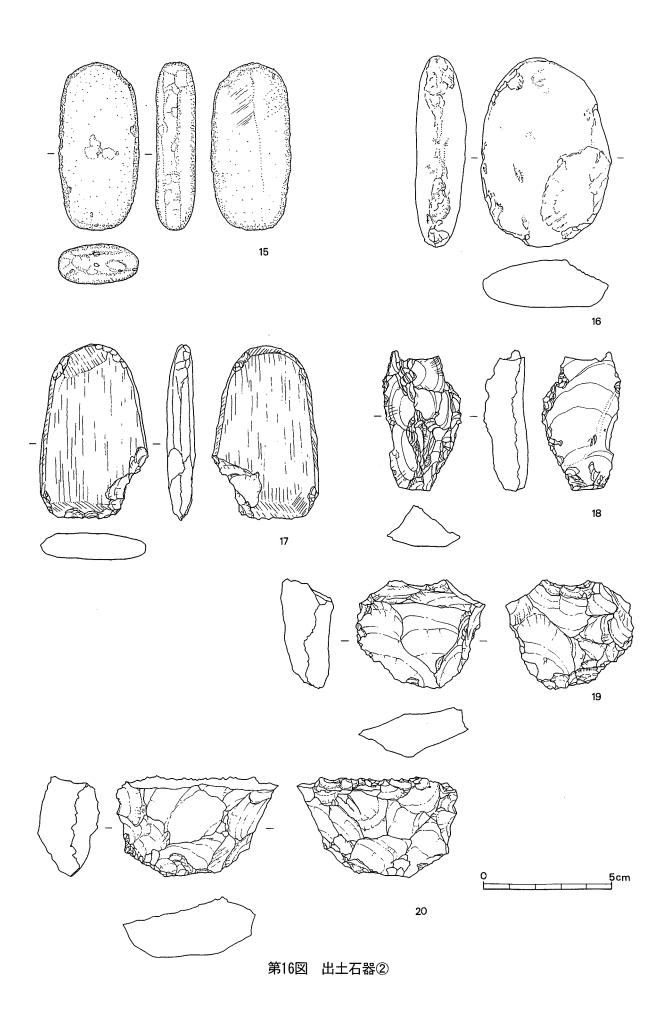
番号	層位	地区・取上No.	器 種	色 調 (外・内)	調 整 (外・内)	備考
42		3 · 313	鉢	暗褐・灰褐	組織+条痕・ナデ	
43		7 • 259	"	灰黄・灰黄	" • "	
44		7 · 317	"	暗黄灰・黒	組織・ナデ	
45		6 • 54	"	黄灰・灰	組織・条痕	
46		7 · 437	"	黒褐・黒	組織・ナデ	
47		7 · 73	"	暗褐・黒	条痕・ナデ	
48		7 · 260	"	黄灰・黒	組織・ナデ	
49		7 · 319	"	灰黄・黒	"·"	
50		3・カクラン	"	灰黄・灰黄	<i>"•"</i>	
51		7 · 338	"	黄褐・黒	// · //	
52		3 · 357	"	暗黄橙・暗黄橙	条痕ナデ・条痕ナデ	組織痕
53		3 • 243	"	" • "	組織・ナデ	
54		7 · 312	"	" • "	// · //	
55		7 • 43	"	黄灰・黒	" · "	
56		10 · 330	"	灰黄・暗灰	ナデ・ナデ	穿孔あり
57		5 · 15	磨研浅鉢	暗灰・暗灰黄	磨研・磨研	
58		6 · 5	"	灰黄橙・灰黄	// · //	
59		7 · 320	"	暗灰黄・暗灰黄	// • // ·	
60		3 • 282	"	灰黄・黄灰	" • "	
61		10 • 246	"	灰黄・灰黄	<i>"</i> • <i>"</i>	
62		7 • 21	"	黒灰・黒灰	<i>"</i> • <i>"</i>	
63		6 • 29	"	暗灰黄・黒灰	" • "	
64		7 • 36	"	黒褐・暗褐	" • "	
65		2 · 159	"	黄灰・灰黄	" • "	
66		7 • 459	"	灰黄・灰黄	// · //	
67		7 • 638	"	暗灰黄・灰	// · //	
68		7 · 76	鉢・底	黄褐・黒	組織・磨研	
69		3 • 302	"•"	"•"	"•"	
70		7 · 400	底 部	灰褐・灰黒	条痕・ナデ	
71		3・カクラン	"	赤褐・赤褐	" • "	
72		9 • 21	"	黄灰・暗灰黄	"•"	
73		7 • 168	"	暗褐・灰黒	" • "	
74		7 • 169	"	暗赤褐・黒灰	" • "	
75		3 • 370	"	暗黄橙・灰黄	" • "	
76		7 • 503	"	赤褐・黒	<i>" • "</i>	内;スス付着
77		7 • 590	"	灰褐・灰黒	ナデ・ナデ	
78		7 • 399	"	褐・灰黒	条痕ナデ・ナデ	
79		7 • 168	"	灰赤橙・灰黄	条痕・ナデ	
80		7 · 535	"	赤褐・灰褐	<i>"</i> • <i>"</i>	
81		10 • 298	甕	淡黄灰・淡黄灰	ナデ・ナデ	
82		10 · 875	"	赤褐・赤褐	// · //	

## 第4表 各区出土の土器③

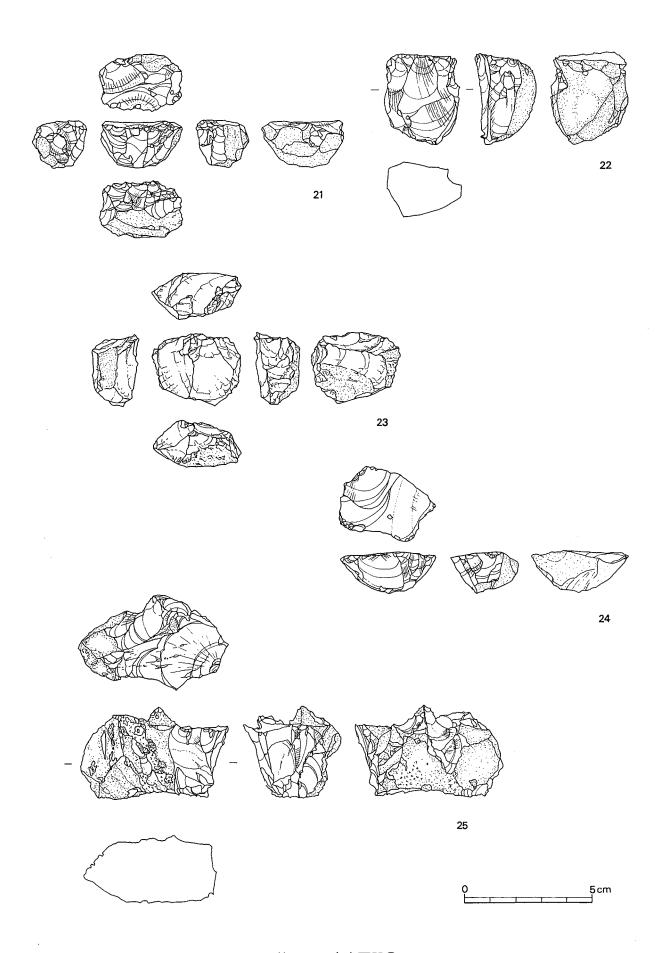
番号	層位	地区・取上No.	器 種	色 調(外・内)	調整(外・内)	備考
83		10 • 1043	甕	淡黄・淡黄	ナデ・ナデ	
84		10 · 787	"	// · //	" • "	
85		11 • 244	"	黄灰・黄灰	// · //	石英槐混入
86		10 • 114	"	朱・朱	" • "	朱塗土器
87		10 • 1110	"	淡黄・淡黄	// · //	
88		11 • 285	"	" • "	" • "	石英小槐混入
89		10 · 208	壺	灰黄・灰黄	// · //	
90		10 · 314	甕	" · "	"•"	
91		10 • 1083	"	淡黄灰・淡黄灰	" • "	
92		11 · 246	甕・底部	淡黄・灰黄	// • //	
93		7 · 312	有孔円盤	灰褐	// • //	
94		3 · 70	甕	明黄橙・明黄橙	// · //	取っ手か?
95	1a	10 •		灰・灰	タタキ・ナデ	
96	"	10 •		// • //	<i>"</i> • <i>"</i>	
97	"	10 •		灰・灰	格子目タタキ・条痕	
98		9 • 49	こね鉢	灰黒・灰黒	ナデ・条痕	
99	1a	4 •	"	灰・灰黒	ナデ・ナデ	8条1単位の条線
100	1a	4	"	灰・灰	// · //	



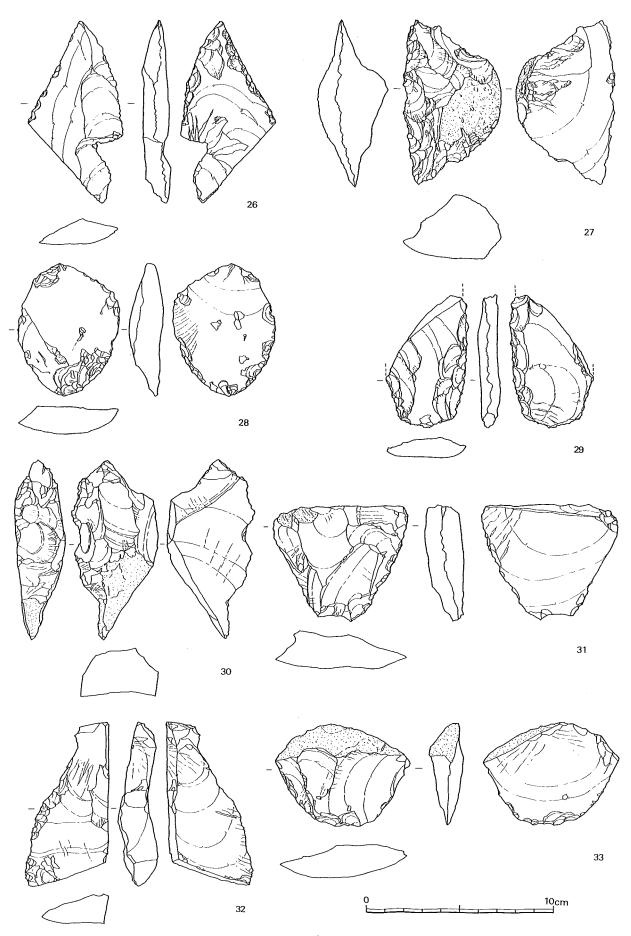
第15図 出土石器①



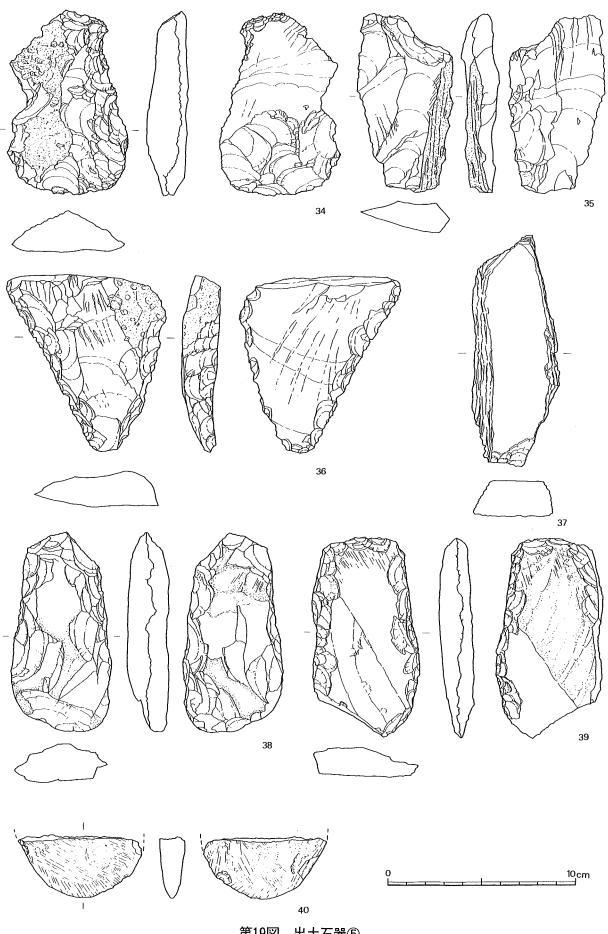
-28-



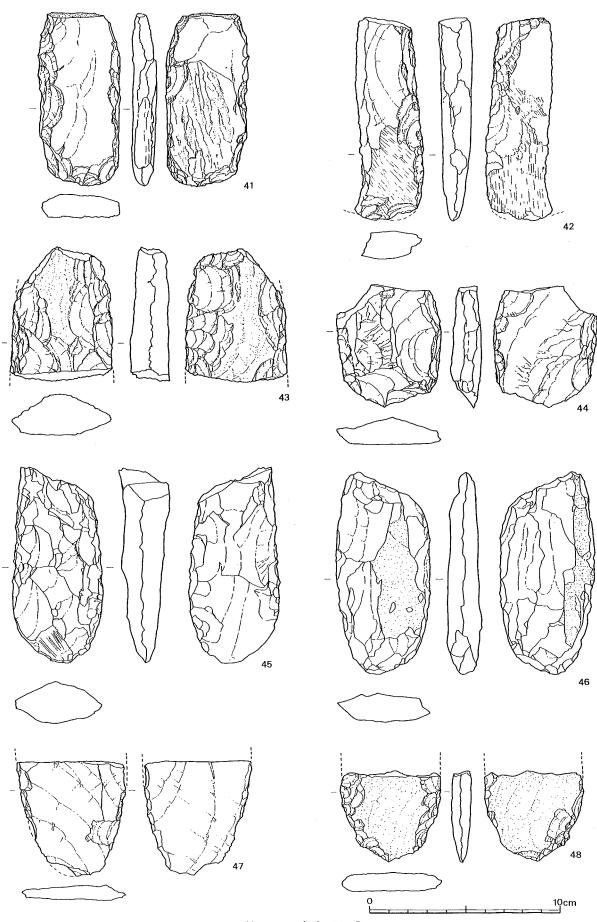
第17図 出土石器③



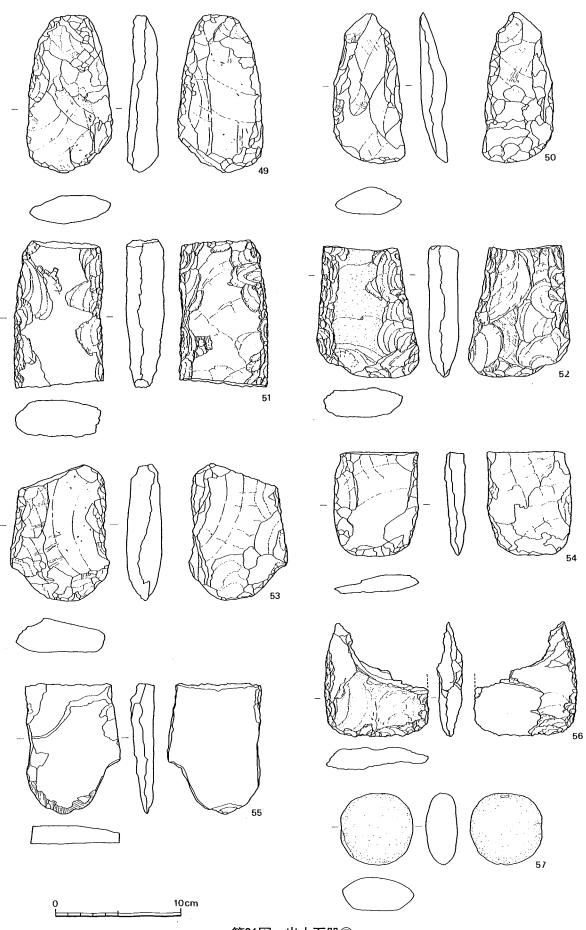
第18図 出土石器④



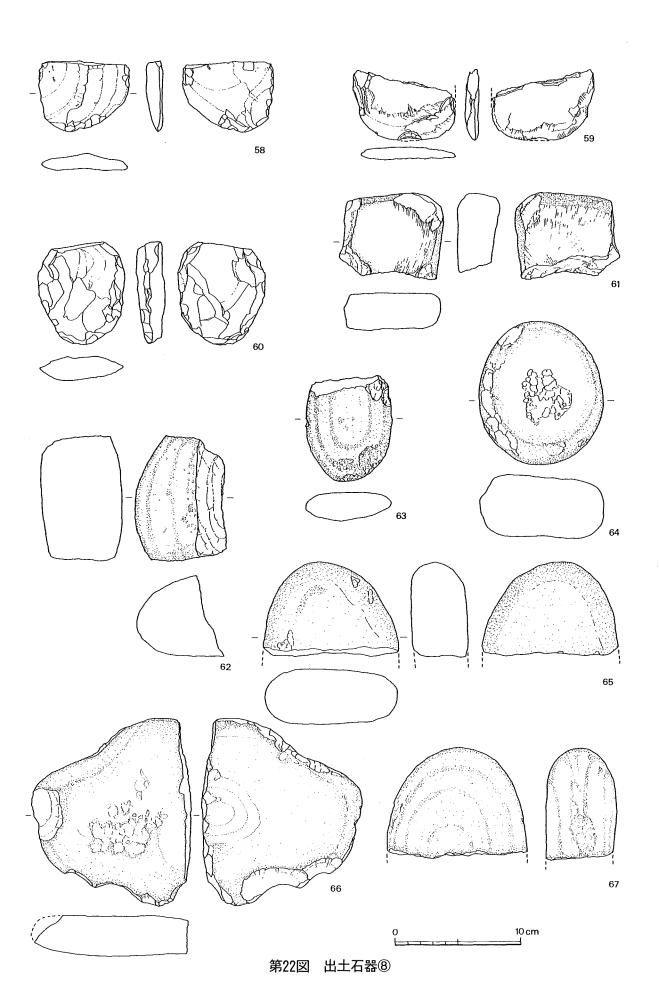
第19図 出土石器⑤



第20図 出土石器⑥



第21図 出土石器⑦



-34-

第5表 各区出土の石器①

番号	地区	層位	器 種	石 質	最大長	最大幅	最大厚	重 量	備考
1	2	1	石 鏃	黒曜石	1.8	2.2	0.4	1.27	
2	3	10	"	安山岩	1.6	2.9	0.5	1.23	
3	_		"	黒曜石	1.1	1.4	0.2	0.22	
4	-	3	スクレーパー	"	2.3	3.1	1.5	8.92	
5	2	1	"	"	2.75	3.3	1.4	9.66	
6	-	6	"	"	2.25	3.55	0.6	4.61	
7	_	2	使用痕ある剥片	"	2.3	3.5	0.5	2.02	
8	_	3	"	"	2.3	3.9	0.8	4.12	
9	2	9	"	"	2.7	2.3	0.7	3.58	
10		2	"	"	2.0	3.9	0.9	4.85	
11	_	6	スクレーパー	安山岩	2.9	5.4	1.3	20.0	
12	2	10	"	"	3.85	4.2	1.7	27.0	
13	_	6	"	"	2.85	6.0	1.5	24.0	
14	_		剥片	黒曜石	3.0	3.2	1.4	11.80	
15	3	7	ハンマーストーン	安山岩	3.2	6.6	1.5	44.0	
16	_	7	"	硬質砂岩	5.1	7.4	2.0	102.0	
17	1	2	磨製石斧	蛇紋岩	4.2	6.85	1.1	54.0	
18	2	3	石 核	黒曜石	2.05	5.45	1.65	22.16	
19	2	10	スクレーパー	安山岩	5.1	5.3	2.1	40.0	
20	1	2	"	"	6.3	3.95	2.4	61.0	
21	_	3	石 核	黒曜石	3.2	2.2	2.0	12.0	
22	1	2	"	"	3.0	3.6	2.4	27.96	
23	_		"	安山岩	2.5	2.8	1.7	20.0	
24	_	3	"	黒曜石	3.8	2.9	2.7	11.5	
25	1	2	"	"	5.9	3.6	3.8	60.52	
26		7	スクレーパー	安山岩	5.0	9.4	1.5	40.0	穂摘具か?
27	_	7	"	"	3.8	8.6	5.2	102.0	"
28		_	"	"	5.3	7.0	1.8	56.0	"
29		11	スクレーパー	"	4.35	6.95	1.15	34.0	打製石斧?
30	3	9	"	"	4.5	9.6	2.7	92.0	
31	3	3	"	"	7.1	6.1	2.0	79.05	
32	3	9	"	"	4.5	8.7	2.1	54.0	
33	3	3	"	"	6.4	9.6	2.2	126.0	
34	3	7	"	"	7.05	5.4	2.0	60.0	
35	1	2	"	"	5.1	9.4	2.0	76.0	
36	_		"	"	8.4	9.4	2.1	128.0	
37	_	7	不明石器	結晶片岩	4.6	12.2	1.9	168.0	
38	3	7	打製石斧	安山岩	5.3	10.5	2.2	140.0	
39	3	10	"	"	5.55	20.5	1.8	124.0	
40	2	9	"	"	6.5	3.3	1.3	32.5	
41	3	10	"	"	5.2	4.8	1.0	31.0	

第6表 各区出土の石器②

番号	地区	層位	器種	石 質	最大長	最大幅	最大厚	重 量	備考
42		11	打製石斧	安山岩	3.65	10.65	1.75	92	
43	1	2	"	"	5.35	7.1	2.1	111	
44		11	"	"	5.5	6.4	1.7	64	
45	_	2	"	"	4.3	10.3	2.7	124	
46	_	6	"	"	5.0	10.7	1.8	110	
47		10		"	5.8	6.0	1.0	30	
48	3	10	"	"	5.2	4.8	1.0	31	
49		11	"	"	6.7	12.3	2.4	230	
50	3	3	"	"	5.6	11.7	2.1	142	
51		7	"	"	7.0	11.5	3.0	366	
52	3	7	"	"	8.1	10.3	2.4	268	
53	_	6	"	"	6.9	10.7	2.8	292	
54		11	"	"	6.5	8.2	1.6	98	
55		3	"	"	7.5	10.2	1.9	164	
56	3	10	"	"	8.0	5.5	1.1	56	
57		11	すり石	"	5.6	5.7	2.5	115	
58	3	10	打製石斧	"	7.0	5.5	1.3	62	
59	2	10	"	"	8.0	5.5	1.1	56	
60		11	スクレーパー	"	6.8	8.1	2.3	147	
61	2	7	砥 石	砂岩	8.1	6.8	3.4	269	
62	3	3	すり石	安山岩	6.35	9.85	7.2	620	
63		7	"	"	6.8	8.3	2.3	182	叩き痕あり
64	3	7	"	"	9.8	11.3	5.0	960	"
65	2	9	"	"	10.6	7.5	4.5	494	
66	3	7		"	12.5	14.7	3.2	770	
67		11		"	11.5	8.8	5.6	760	

## IV まとめ

#### 1. 稗田原遺跡の編年的位置

今回の調査では、縄文時代晩期中葉の、古田正隆分類では礫石原式と呼ばれる、黒川式併行期の土器を比較的まとまった形で検出することができた。本遺跡の600m程北東側に所在する畑中遺跡では、多条沈線をもつ夕が状口縁をもつ深鉢を主体とし、浅鉢も口縁部が外方へ開くタイプが大半を占める。本遺跡の深鉢でもA類としたものが、夕が状口縁をもちながら多条沈線がなくなっているので、型式学的にいう「手抜き」の方向性を適用すれば後出するものだろう。当該期、晩期前半の土器の編年を国崎遺跡の層位的な出土状況等によって整理した古門雅高(古門1995)は、①有明町中田遺跡出土土器(御領式土器に後続する型式の段階)→②島原市畑中遺跡出土土器→③島原市礫石原遺跡出土土器(黒川式段階)という流れを堤示しており、この後には刻目凸帯文土器が出現する。稗田原遺跡はこの③段階に相当する。刻目凸帯文土器も出土していない。島原市畑中遺跡→稗田原遺跡への移行が考えられる。

#### 2. 時期的に移動する晩期遺跡

平成3年の畑中遺跡、平成6年の稗田原遺跡3次調査、今回の稗田原遺跡調査の時期を見てみると、平成6年の稗田原遺跡3次調査部分では、刻目凸帯文土器の出土があるところから、①畑中遺跡→②稗田原遺跡今回調査部分→③平成6年の稗田原遺跡3次調査部分と推移していることが判る。これまでの調査された1km程の範囲での限定された知見ではあるが、輪郭は捉えられたのではないだろうか。この地点的な移動現象はなにを示すのだろうか?藤原(本報告)の分析によれば、畑中遺跡出土土器の胎土中から、?印つきながら稲のプラントオパールが検出されているし、今回の稗田原遺跡の3層中からも稲のプラントオパールが検出されている。打製石斧等の出土もあるところから、焼畑農耕による定期的な移動も想定されるが、確定するまでにはこれからの研究の進化と論の積み上げが必要に思われる。

## 3. 自然科学的分析で捉えられた縄文時代中期末〜後期にかけての イネのプラントオパール

ところが、今回の自然科学的な分析のアプローチでは、縄文時代晩期どころか、中期にまで溯る稲のプラントオパールの資料提示があった。藤原の土壌の花粉分析、長岡・田島(本報告)の遺跡のテフラ層序で火砕流の年代測定等の分析の結果、縄文時代晩期の包含層の下の火砕流は「六ツ木火砕流」でそのC14年代は3620±60yrBP(補正済)という結果が出ている。また、藤原の分析ではこの「六ツ木火砕流」の下の土層からイネの花粉が検出されている。このC14年代の3620±60yrBP(補正済)という年代は、縄文時代中期末~後期にあたる。詳しくは2部を参照願いたいが、自然科学分野からのこの提示を考古学はどのように受け止めれば良いのだろうか。

## 4. 変化する弥生時代観

1995年度版、『日本考古学協会年報』で、中園聡(中園1997)は、6弥生時代研究の動向の中で、『弥生文化の成立という大変革は「渡来」や「伝播」という一回性のイベントの結果というよりも、縄文人の主体性と長期性に着目されている点は、旧来の考えにやや疑問を見いだしつつあった者たちに歓迎されるに違いない』と金関丈夫と大阪府立弥生博物館の提起を紹介している。

要するに、縄文時代後・晩期農耕論、ないしは縄文農耕論の存否にかかわる問題だと思われるが、自然科学や民俗学の分野の主張に比較して、考古学の方面からは対応が鈍いか、否定的な考えが強かったように思われる。考古学が遺物によって、その論を積み上げるという方法論も関係しているのかもしれない。

### 5. 縄文農耕論について

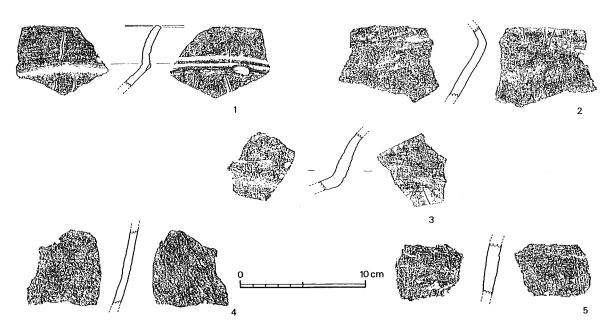
これまでも、縄文時代に農耕があったかどうかは、様々な論議があった。これらの論議をまとめて概観したものに、能登健『縄文農耕論』(能登1987)がある。これによれば、縄文農耕論を肯定しようとする見解の論点として以下の4点を挙げている。

- ①出土遺物のうち打製石斧や凹石、石皿などを、直接的あるいは間接的に農耕具とするもの。
- ②信仰的遺物の解釈から、その社会的背景を分析して農耕を想定するもの。
- ③水稲農耕の遡源または先行する原始的農耕の存在を、理論的に理解しようとするもの。
- ④関連する諸科学における縄文農耕を認めつつ、考古学に援用しようとするもの。

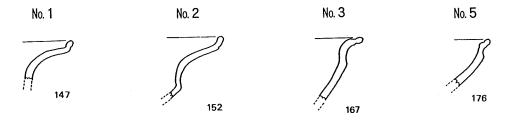
縄文農耕論の否定的考え方もあったが、現在の状況としては、縄文時代後・晩期遺跡等からのプラントオパールの検出等の自然科学分野の成果を援用し、肯定的な方向と迎向きつつあるところではないだろうか。

## 6. 今後の縄文農耕論への展開へ向けて

長岡・田島(本報告)の報文にもあるように、本報告分の稗田原遺跡が立地する三会原台地は良好なテフラ層序の堆積がある。今回、約3,620年前の縄文時代中期末~後期にかけての六ッ木火砕流の下層からイネのプラントオパールが検出された。今後は、縄文農耕論を念願においた調査・分析が必要になってこよう。いずれにしろ、ひとつひとつの状況証拠の積み上げがこれから求められる。



付図1 大野原遺跡試掘調査出土土器検体資料



付図2 畑中遺跡出土土器検体資料(下の番号は報告書番号) 「畑中遺跡」島原埋蔵文化財調査報告書 第9集 1994 島原市教育委員会より

#### [引用参考文献]

古門雅高 1995 「国崎遺跡 II 」南串山町文化財報告書第 3 集 南串山町教育委員会 中園 聡 1997 「6 弥生時代研究の動向」『日本考古学協会年報』1995年度版 日本考古学協会 能登 健 1987 「一縄文農耕論」『論争・学説 日本の考古学 3 縄文時代 II 』雄山閣出版

## 長崎:稗田原関連遺跡におけるプラント・オパール分析

宮崎大学 藤 原 宏 志

我が国における稲作の起源がどこまで遡るかについては、未だ定かでない。イネ属(Oryza属: 野生イネを含む)植物は日本列島に現存せず、また過去の植物分布に関するデータを総合して考える時、同属植物が当該列島に分布した形跡はないとするのが通説である。したがって、イネ属に由来する遺物が検出されれば、それは何らかの形で栽培されたものと考えて大きな間違いはないことになる。

(ただし、少量のイネ籾が検出された場合などでは、当該列島以外のところで栽培され搬入されたのではないかという疑問が出る余地はあろう。)

長崎・島原半島は山ノ寺遺跡をはじめ縄文時代晩期に農耕があったことを示唆する考古遺物の出土で知られている。稗田原遺跡にも同時代の遺物包含層があり、はたして、ここでもその痕跡が確認できるか興味深いところである。

土器胎土に含まれるプラント・オパールを検出する方法は、その土器が製作される以前に、そのプラント・オパールが由来する植物が存在したことを示すものであり、作物起源を実証的に追究しようとする場合有効である。稗田原周辺遺跡で出土した縄文時代の土器胎土のプラント・オパール分析を行ったので、その結果を報告する。

#### 1. 分析法および試料

{分析法}

プラント・オパール分析は土壌試料定量分析と土器胎土分析を行った。分析方法は、それぞれ定 法にしたがい、宮崎大学農学部で行われた。

{試料}

分析に供した試料のうち土壌試料は1997年、稗田原遺跡の調査現場で土層断面から採取した。土 器試料は長崎県教育委員会により発掘され、型式比定されたものである。

#### 2. 分析結果

分析結果は、それぞれ図および表に示した。

#### 3. 考察および結論

(1) 稗田原遺跡土壌試料から検出されたイネ

3層は縄文時代晩期の火砕流堆積物である。3層の下部でイネが検出されるのは3層堆積時に4 層上面土を捲きあげた結果であろう。4層には3層下部より高密度でイネが検出される。少なくと も3層堆積以前にイネが栽培されていたことは確かであろう。ただし、その量および随伴植生(タケ類およびススキ)からみて畑稲作の可能性が高いと思われる。

#### (2) 稗田原遺跡土壌試料から検出されたイヌビエ

稗田原遺跡(10地点B)ではキビ属、その形状からイヌビエと判断されるプラント・オパールが 8層まで検出される。これが栽培によるものかどうかは定かでない。栽培の根拠が明らかになれば 栽培ビエということになる。稗田原という地名も興味深い。

#### (3) 大野原遺跡土壌試料から検出されたイネ

大野原遺跡土壌の2層でイネが検出された。しかし、量的に少ないことを考えると上位層からの落ち込みも考えられる。その上位層の試料が採取できなかったため、2層で栽培されたイネか否かの判断はできない。

#### (4) 大野原遺跡出土土器の胎土から検出されたプラント・オパール

大野原遺跡で発掘された土器の胎土から数種のイネ科植物プラント・オパールが検出されたが、 明瞭に栽培植物と判断されるものはなかった。土器試料No. 3 (縄文時代晩期前半)ではイネの可 能性も考えられるブラント・オパールが検出されたが断定するには至らなかった。

#### (5) 畑中遺跡出土土器の胎土から検出されたプラント・オパール

畑中遺跡で発掘された土器の胎土からも数種のイネ科植物プラント・オパールが検出された。この遺跡で発掘された土器胎土からはヨシのブラント・オパールが多く検出され、低湿地で堆積した土が胎土として利用されたことを示している。

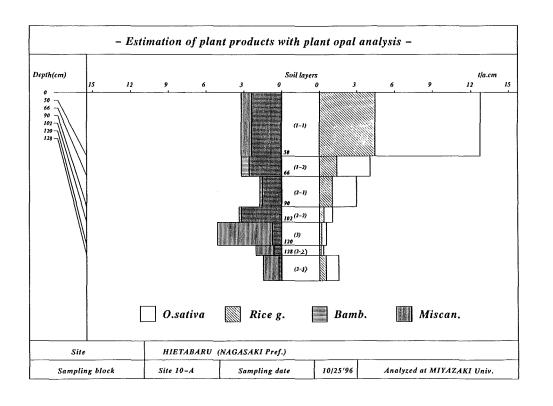
この遺跡土器でも明瞭に栽培植物と判定できるものは認められなかった。ただし、土器試料No. 3 (縄文時代後期後半)にはイネの可能性もあるプラント・オパールが認められたが検出数も少なく判断を控えることにした。

## 稗田原遺跡におけるプラン・オパール定量分析結果

宫崎大学農学部 地域農学講座

Sampling block [10地点A]
Sampling date [10/25'96]

層名	イネ (0.sati.)	イネ籾 (Rice g.)	植物体乾 キビ族 (Pani.)	重 ( t/a キビ族種実 (Pani.seed)	ヨシ	タケ亜科 (Bamb.)	ススキ (Andoro.)
1-1	12.754	4.468	21.171	9.614	0.000	2.360	3.228
1-2	4.080	1.429	16.929	7.687	0.000	3.219	2.581
2-1	2.980	1.044	40.185	18,248	0.000	1.763	1.571
2-2	1.089	0.381	31.621	14.359	0.000	3.377	3,214
3	0.577	0.202	7.187	3.264	0.000	0.754	5.114
3下	0.349	0.122	5.789	2.629	0.000	0.683	2.059
3直下	1.559	0.546	4.851	2.203	0.000	0.254	1.479

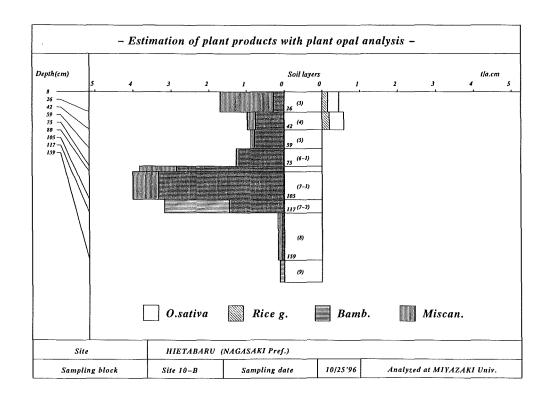


## 稗田原遺跡におけるプラン・オパール定量分析結果

宮崎大学農学部 地域農学講座

Sampling block [10地点B]

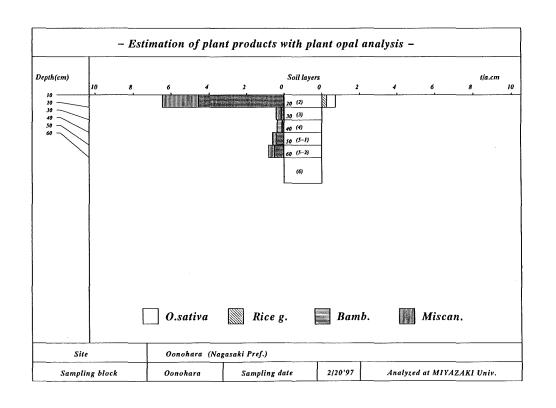
				· ·	Samp	ling date	[10/25'96]
層名	イネ   (0.sati.)	イネ籾 (Rice g.)	キビ族	重 ( t / a キビ族種実 (Pani.seed)	ヨシ	タケ亜科 (Bamb.)	ススキ (Andoro.)
3	0.451	0.158	11.224	5.097	0.000	0.294	1.711
4	0.580	0.203	4.816	2.187	0.000	0.758	0.979
5	0.000	0.000	2.889	1.312	0.000	0.796	0.881
6-1	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	1.189	1.280
6-2	0.000	0.000	0.000	0.000	1.648	2.854	3.834
7-1	0.000	0.000	9.107	4.135	3.449	3.344	4.011
7-2	0.000	0.000	4.332	1.967	2.461	3.182	1.468
8	0.000	0.000	1.662	0.755	0.000	0.065	0.169
9	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.117	0.000



## 大野原遺跡におけるプラン・オパール定量分析結果

宮崎大学農学部 地域農学講座

			Sam	pling block [		ling date	[2/20'97]
層名	イネ (0.sati.)	イネ籾 (Rice g.)	植物体乾 キビ族 (Pani.)	重 ( t / a キビ族種実 (Pani.seed)	. cm ) ヨシ (Phrag.)	タケ亜科 (Bamb.)	ススキ (Andoro.)
2	0.730	0.256	19.687	8.940	0.000	4.588	6.465
3	0.000	0.000	4.249	1.930	0.000	0.167	0.432
4	0.000	0.000	3.500	1.589	0.000	0.367	0.119
5-1	0.000	0.000	4.456	2.023	0.000	0.409	0.604
5-2	0.000	0.000	5.346	2.427	0.000	0.526	0.815
6	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000



## 長崎県畑中遺跡土器リスト

試料番号	時	期	備考
No.1	縄文時代	:晚期前半	
No.2	縄文時代	说 期 前 半	
No.3	縄文時代	、晚期前半	
No.4	縄文時代	:晚期前半	
No.5	縄文時代	、晚期前半	

## 長崎県大野原遺跡土器リスト

試料番号	時	期	備考
No.1	縄文時代	後期後半	
No.2	縄文時代	後期後半	
No.3	縄文時代	後期後半	
No.4	縄文時代	後期後半	
No.5	縄文時代	後期後半	

## 長崎県畑中遺跡出土土器のプラント・オパール分析結果

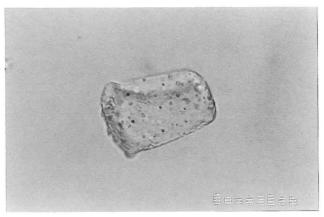
L BENO	プラント・オパール										
土器No.	イネ	ョシ	タケ	ススキ	キビ族	その他					
1			極少	極少 極少							
2			少	少		シバ					
3	?	少	少	少	少	シバ					
4			少								
5			少								

## 長崎県大野原遺跡出土土器のプラント・オパール分析結果

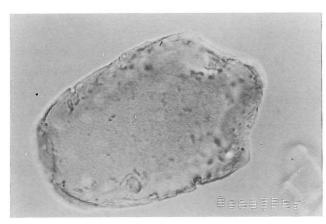
土器No.	プラント・オパール										
	イネ	ョ シ	タケ	ススキ	キビ族	その他					
1		多	少	多	少						
2	10000		少	少							
3.	?	多	少	多	少	シバ					
4		多	少	多	極少						
5		多	極少	多	少						



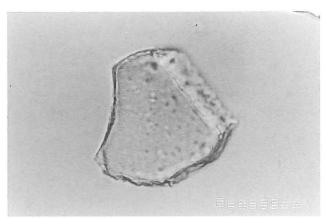
試料No.3 イネ (?)



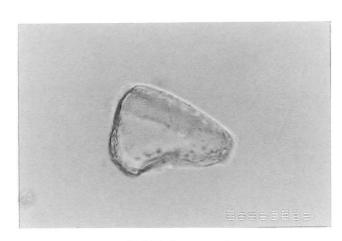
試料No.3 イヌエビ



試料No.3 ヨシ

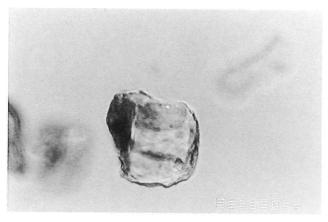


試料No.3 タケ類

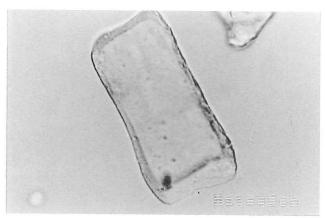


試料No.3 ススキ

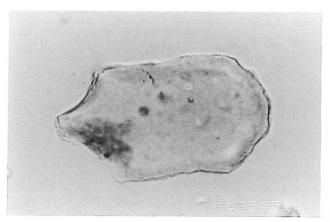
大野原遺跡出土土器から検出されたプラント・オパール



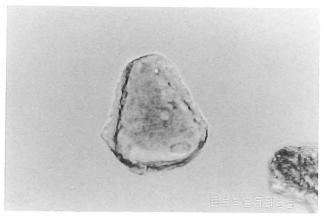
試料No.3 イネ (?)



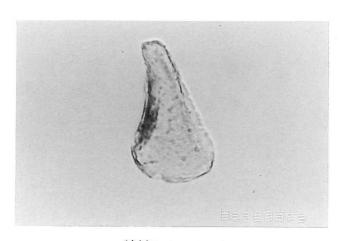
試料No.3 イヌエビ



試料No.1 ヨシ



試料No.3 タケ類



試料No.1 ススキ

畑中遺跡出土土器から検出されたプラント・オパール

## 雲仙火山北麓の稗田原遺跡のテフラ層序

長岡 信治(長崎大学教育学部)·田島 俊彦(日本火山学会会員)

#### 1. 雲仙火山北麓のテフラ層序

雲仙火山北麓には、段丘化した台地状の火山麓扇状地が広がり(図1)、百花台遺跡に見られるように有史以前から我々に生活の場を提供してきた。一方、扇状地は、雲仙火山の度重なる噴火の影響を受け、火砕流などの火山噴出物や土石流に厚く覆われている。扇状地を覆うテフラは、雲仙火山からのものが主体であるが、阿蘇カルデラ起源の阿蘇4火砕流: Aso-4、姶良カルデラ起源の姶良Tn降下火山灰: AT, 鬼界カルデラ起源の鬼界-アカホヤ降下火山灰: K-Ahなどの広域テフラも発見されている(町田・新井、1992;渡辺・星住、1995など)。

雲仙火山北麓に分布するテフラは、西部で10m前後、中央部で15m、東部で20~30mと扇状地面面が若くなるにも関わらず、東へ厚くなる。これは、最近の活動が東側の妙見岳火山や普賢岳火山を中心に起きているためである。北麓のテフラは、古期テフラと新期テフラの2つに大きく分けることができる(図2、写真1)。

古期テフラは主に西部の中期更新世の扇状地面上に分布する。厚さ10m前後で、保存が悪く、全体に赤色土化作用を弱く受けている。テフラは、土壌化した風化火山灰とBlock-and-ash flow型(溶岩ドーム崩壊型、後述)火砕流堆積物の互層で、魚洗川火砕流や(渡辺・星住、1995)など7ユニット以上の火砕流堆積物や岩屑なだれ堆積物(写真2の立野町岩屑なだれ堆積物など)が確認されている(長岡、1995)。これらは、猿葉山・高岳・高岩山・編笠山・吾妻岳・九千部岳などの50万~17万年前の古期雲仙火山(渡辺・星住、1995)、または、基底火山期、高岳期、九千部期(太田、1984)の噴出物と推定される。

新期テフラは、新期雲仙火山(渡辺・星住、1995)、または、普賢期、有史期(太田、1984)に属し、野岳・妙見岳・普賢岳・眉山などの10万年前より新しい火山体を給源とする。新期テフラは、厚さ20m以上で、後期更新世~完新世の扇状地面を覆っている。基底に阿蘇4火砕流堆積物(八女ユニットと鳥栖ユニット、Watanabe、1978)があり、10~9万年前以降の年代と推定される。広域テフラ以外のテフラの主な給源火山は、妙見岳と普賢岳、眉山である。新期テフラは、土壌化した風化火山灰とBlock-and-ash flow型火砕流堆積物、降下火山灰などの互層である(写真1、2、3)。Block-and-ash flow型火砕流堆積物は、メラピ型とも呼ばれ、安山岩質溶岩片とマトリクスの石質火山灰からなる堆積物で、溶岩ドームの崩落により発生したものである。広域テフラ(ガラス質)以外の降下火山灰(雲仙細粒降下火山灰1・2・3・4・5・6など)は、石質で、水蒸気噴火や火砕流の ash cloud などに由来するテフラと推定される。

主な鍵テフラ層は、上位の新しいものより、以下の通りである(図2)。

平成火砕流堆積物·降下火山灰(平成新山起源;渡辺·星住,1995):Hi

眉山岩屑なだれ堆積物(眉山起源、渡辺・星住、1995): My

六ツ木火砕流堆積物(眉山起源;渡辺・星住,1995): M t

雲仙細粒降下火山灰6:UFA日6(新称,島原市宇土町周辺で確認,Smとの関係は不明)

島原岩屑なだれ堆積物(普賢岳起源?;渡辺・星住,1995): Sm

鬼界-アカホヤ降下火山灰: K-Ah (鬼界カルデラ起源;町田,新井,1992)

雲仙細粒降下火山灰5:UFA-5(新称)

雲仙細粒降下火山灰4:UFA-4(新称)

礫石原火砕流堆積物(普賢岳起源,渡辺・星住,1995): Kr

雲仙細粒降下火山灰3:UFA-3(新称)

北千本木火砕流堆積物: K t (普賢岳起源?;新称)

雲仙細粒降下火山灰2:UFA-2(新称)

姶良Tn降下火山灰: AT (姶良カルデラ起源;町田・新井, 1992)

一本松火砕流堆積物(妙見岳起源;渡辺,星住,1995): I p

雲仙細粒降下火山灰1:UFA-1(新称、Vesiculated ash、気泡を含む)

阿蘇4火砕流(軽石・火山灰流)堆積物:Aso-4(阿蘇カルデラ起源:Watanabe, 1978)

なお、礫石原火砕流堆積物直下には、薄い先駆的な二ツ石降下軽石堆積物:Ft (新称)が伴うことがある(図2の970818-2地点)。

噴出年代は、阿蘇4火砕流堆積物が9万~7万年前、姶良Tn降下火山灰が2.2万~2.5万年前、 礫石原火砕流が1.4万または1.9万年前、鬼界アカホヤ降下火山灰が6.3千年前、六ツ木火砕流が4 千年前、眉山岩屑なだれ堆積物がAD.1792、平成火砕流堆積物・降下火山灰がAD1991-1995で ある(渡辺・星住、1995)。

また、姶良Tn降下火山灰直下から表層までの鍵テフラの間の火山灰土は、暗褐色〜黒色土である。特に鬼界-アカホヤ降下火山灰直下から表層までは典型的な火山灰土壌である黒ボク土であり、姶良Tn降下火山灰の直下も黒味が強い粘土質火山灰土である。一本松火砕流から阿蘇4火砕流までは、黄褐色土のいわゆるロームである。有明町の大野原遺跡で縄文時代後期の土器工房で貯蔵穴中に胎土として保存されていた粘土は、層相からこの黄褐色土(黄褐色火山灰土)と推定される。縄文式土器の原料として3万~10万年前の火山灰土が使用されていたのである。なお、有明海研究グループ(1965)の普賢黒色火山灰層は、現在の表層の黒色土(黒ボク土)から姶良Tn降下火山灰直下の黒色粘土質土壌までに、三会ロームは、一本松火砕流までに、大三東ロームおよび八女粘土層は、阿蘇4火砕流まで、瑞穂ローム層は古期テフラに相当する。

#### 2. 稗田原遺跡周辺の地形地質

雲仙火山北麓では、25万年前以降、現在までの時代の異なる扇状地が分布している(長岡、1995)。西側ほど古い扇状地が分布し、扇状地は、分布高度と浸食の程度、覆うテフラにより、高位の古いものから、瑞穂段丘、山ノ上段丘、愛野段丘、布江段丘、百花台段丘、高野段丘、三会町段丘、中尾川段丘、多比良段丘の9段丘に区分できる(図1)。これらのうち百花台段丘より低位の4段丘が更新世後期から完新世に形成されたと推定される(長岡、1995)。稗田原遺跡は、後期更新世の三会町段丘面上の海抜40~20mに位置している(図1)。この段丘は、古期雲仙火山の立野町岩屑なだれ堆積物を不整合に覆う厚さ5m以上の巨礫を含む土石流性の安山岩質砂礫層からなる(図3)。この堆積物は火山灰土壌を介して姶良Tn降下火山灰~礫石原火砕流以上のテフラに覆われて、特に上流部では礫石原火砕流堆積物が10m近い厚さで覆っている(図3)。三会町段丘堆積物は、層位的には一本松火砕流堆積物とほぼ同時かやや新しく、同火砕流の噴出に関係して形成されたラハール(二次的な火山性土石流)などによる扇状地と考えられる。阿蘇4火砕流および姶良Tn降下火山灰の年代からみて、三会町段丘は、6万~2.5万年の間に形成されたと推定される。

#### 3. 稗田原遺跡のテフラ層序と年代

遺跡では、下位より、厚さ50 cm以上三会町段丘礫層、10 cm暗褐色火山灰土壌(第9層)、45 cm 礫石原火砕流堆積物(岩片質のBlock-and-ash flow型火砕流堆積物、溶岩ドーム崩壊型火砕流堆積物;第8層)、40 cm暗褐色火山灰土壌(第7層)、30 cm 鬼界アカホヤ降下火山灰(風化ガラス質細粒のCo-ignimbrite降下火山灰;第6層)、10 cm 暗褐色火山灰土壌(第5層)、60~100 cm 六ツ木火砕流堆積物(岩片質のBlock-and-ash flow型火砕流堆積物;第4層)、60 cm 黒色火山灰土壌(第3・2・1層)、1 cm 平成降下火山灰(細粒石質降下火山灰)からなっている(図2、写真4、5)。このうち、六ツ木火砕流堆積物は、しばしば炭化木片を含み、堆積時に高温であったことを示している。

前述したように、火山灰土壌と平成降下火山灰以外の鍵テフラからは<sup>14</sup>C年代測定値が得られている。

すなわち、礫石原火砕流堆積物は、約1万9千年前と約1万4千年前、鬼界アカホヤ降下火山灰は6千7百~6千3百年前、六ツ木火砕流堆積物は約4千年前である(渡辺・星住、1995、町田・新井、1992)。

また、今回、六ツ木火砕流堆積物の炭化木片(写真 6)から3、620±60 yrBP(G X - 22722、 $\delta$  13 C: - 25.4%,補正済,(株)地球科学研究所に測定依頼)という A M S 14 C 年代値を得た。これは,従来の値より300~400年若くなっている。しかしながら,六ツ木火砕流堆積物直上(第 3 層)からは縄文時代晩期の黒川式土器などが出土,その上位の火山灰土壌(第 2 ・ 1 層)中から須恵器・土師器・弥生式土器が出土し(長崎県教育委員会,1997),今回得られた  $^{14}$  C 年代値と整合的である。

#### 4. まとめ

- 1) 稗田原遺跡は、6万~2.5万年前の火山麓扇状地、三会町段丘面上に位置している。
- 2) 遺跡では、2万年前〜現在までの雲仙新期テフラが堆積している。主な鍵テフラは、礫石原 火砕流(19,000または14,000年前),鬼界アカホヤ降下火山灰(6,700〜6,300年前),六ツ木 火砕流(4,000年前)である。
- 3) 六ツ木火砕流に含まれる炭化木片のAMS <sup>14</sup> C年代は3,620 ± 60 yrBPであり、従来の値とほぼ一致する。
- 4) 六ツ木火砕流を覆う黒色〜暗褐色火山灰土壌から、縄文時代晩期以降の遺物が出土しているが、層位的に六ツ木火砕流の14 C 年代値と矛盾しない。

#### 引用文献

有明海研究グルーブ(1965)有明・不知火海域の第四系,地団研専報,11,地学団体研究会,86p. 町田 洋・新井房夫(1992)火山灰アトラス―日本列島とその周辺。東京大学出版会,276p.

長岡信治(1995)雲仙火山北麓における火山麓扇状地の形成. 「雲仙火山に火山性土石流を発生させる豪雨の解析と防災システムの整備充実」研究代表者, 荒生公雄, 平成5~6年度文部省科学研究費補助金一般研究(B)研究成果報告書, 21-48.

Watanabe, K. (1978) Studies on the As opyroclastic flow deposits in the region to the west of the Aso caldera, southwest Japan: I, Geology. *Mem. Fac. Educ., Kumamoto Univ., Natural Science*, 27, 97-120.

渡辺一徳・星住英夫(1995)雲仙火山地質図.火山地質図8,地質調査所. 長崎県教育委員会(1997)長崎県埋蔵文化財調査年報、Ⅳ、平成七年度,48p.

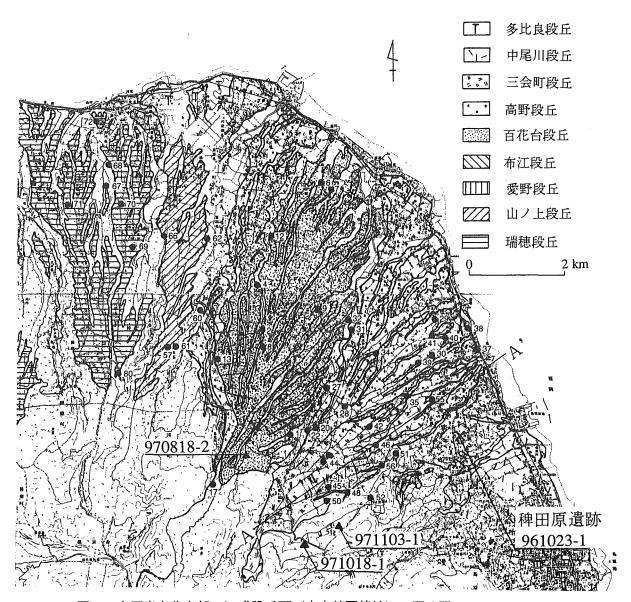
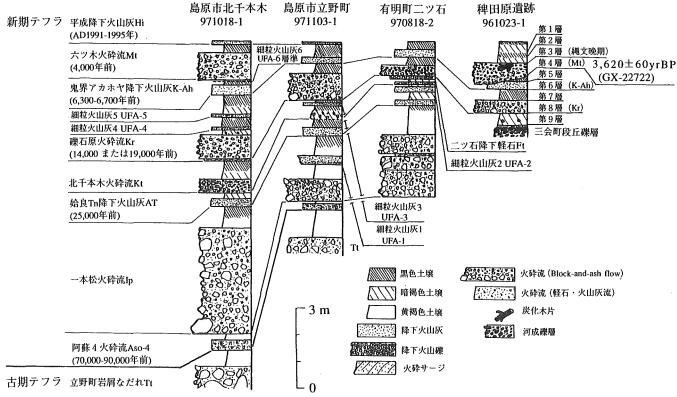
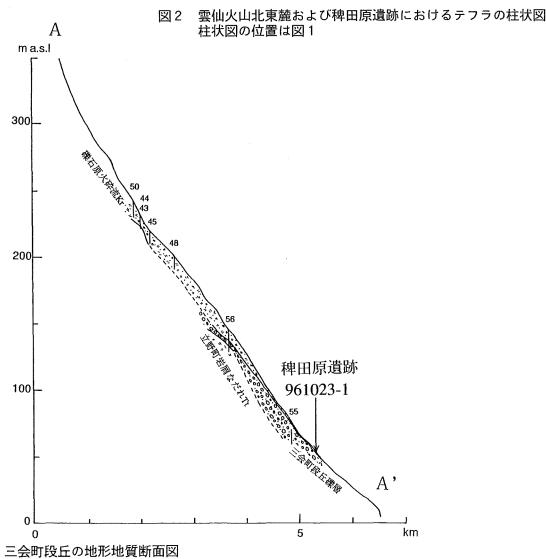


図1 島原半島北東部の河成段丘面(火山麓扇状地)の区分図





-54-

図3

断面の位置は図1

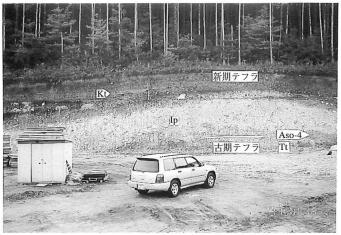


写真1 島原市北千本木971018-1地点の古期テフラの最上部と新期テフラ テフラの記号は本文参照



写真 2 島原市北千本木971018-1地点の2万年前以降の新期テフラ

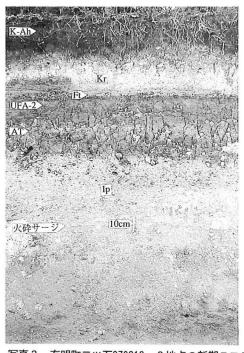


写真3 有明町二ツ石970818-2地点の新期テフラ

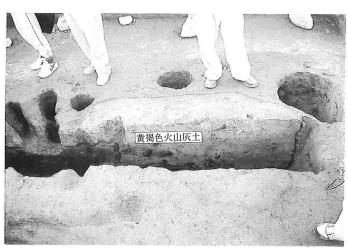


写真 4 有明町大野原遺跡で黒色火山灰土中に胎土として貯蔵されていた Aso-4~ I p 付近の層準の黄褐色火山灰土

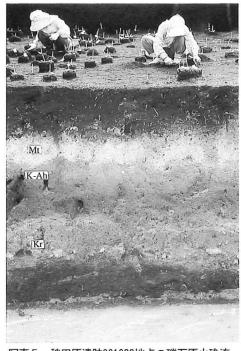


写真5 稗田原遺跡961023地点の礫石原火砕流 より新しい新期テフラ

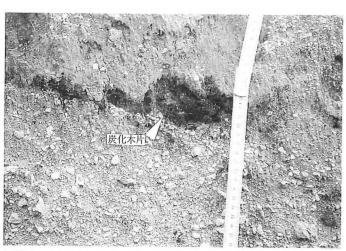


写真6 AMS14C年代測定を行った六ツ木火砕流中の炭化木片

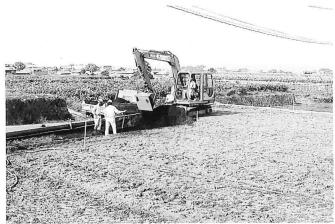
# 図 版



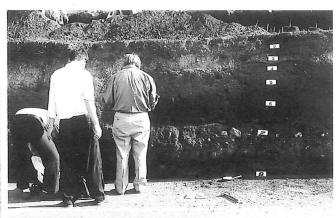
遺 跡 遠 景(中央部ビニールハウスの先)



調査風景



表土剥ぎ風景



プラントオパール土壌採取風景



1区3層上面



1区4層上面



1区3層上面溝

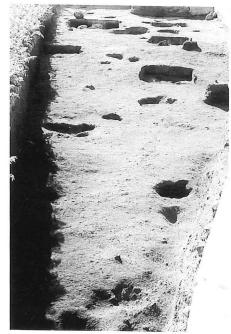


2区,7区調査風景



2区遺構検出状況

## 図版 3

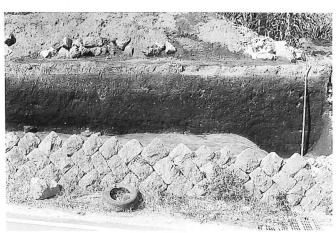




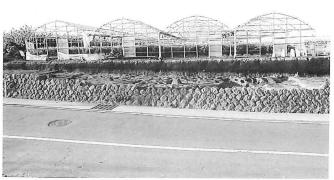


5・6・7区遺構検出状況

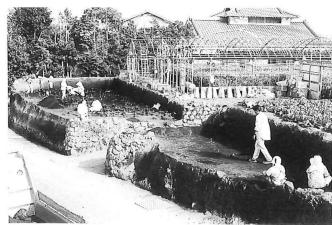




5区北壁土層



6・7区北壁土層



9・10区調査状況



10区遺構検出状況(西から)

## 図版4



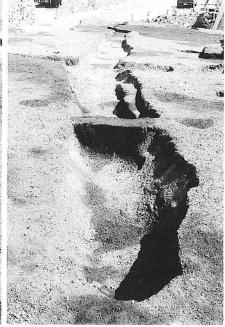
10区遺構検出状況



10区北側土層.白く見える層が「六ッ木火砕流」







10区溝1

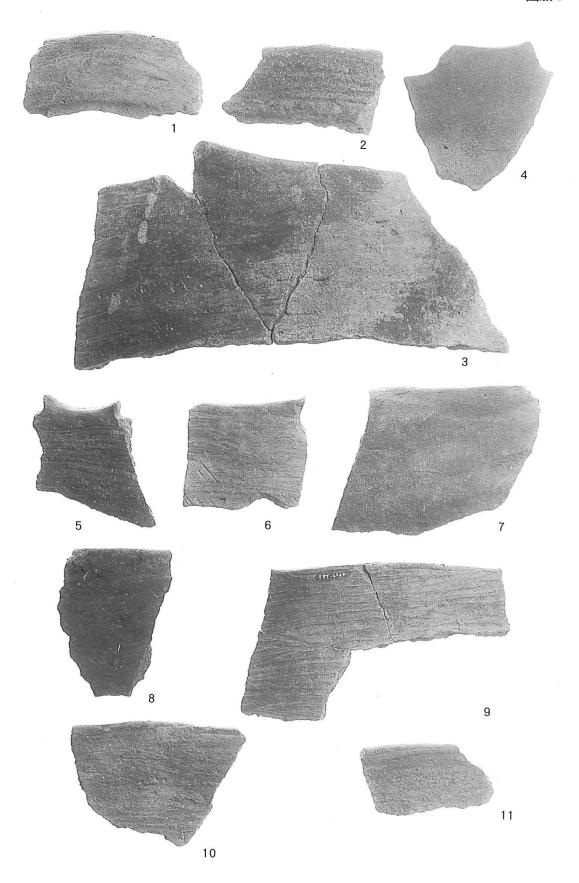
11区溝1

11区溝2

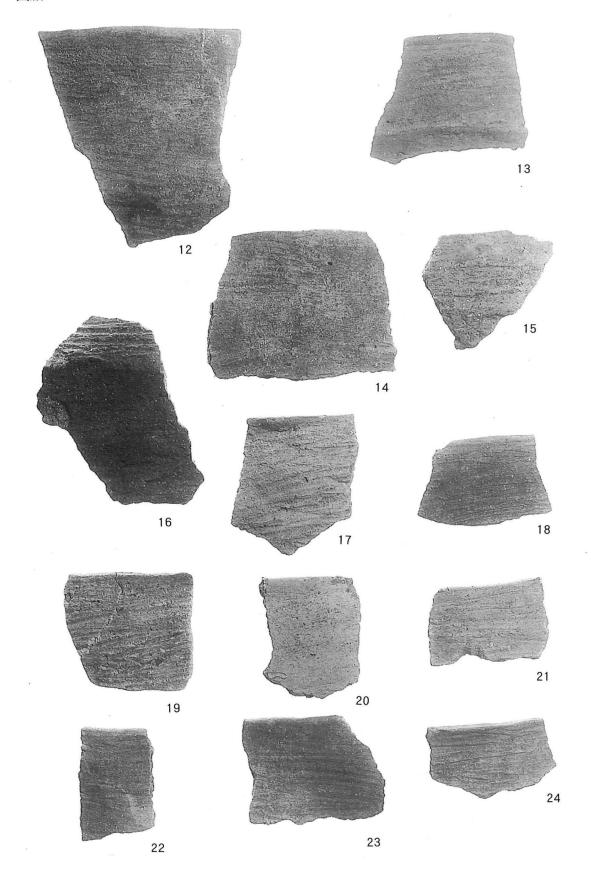


11区遺構検出状況

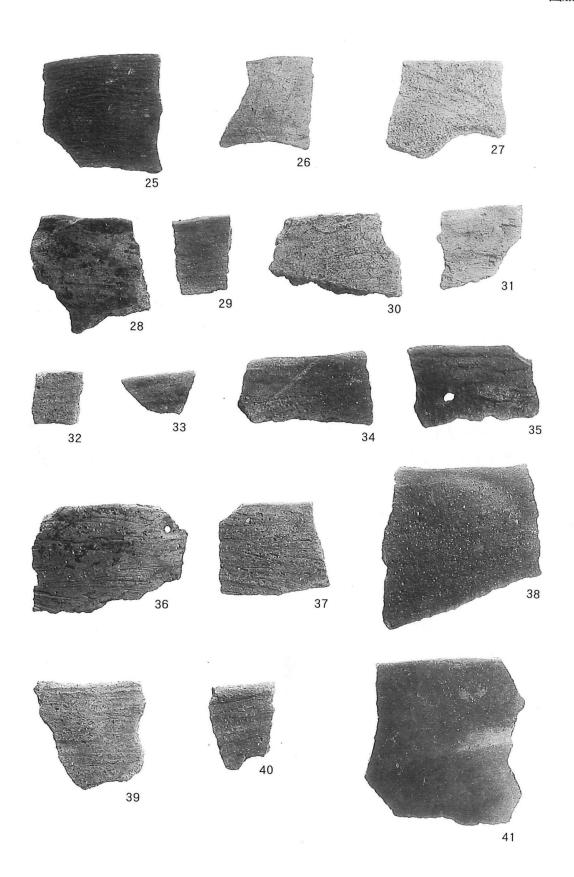




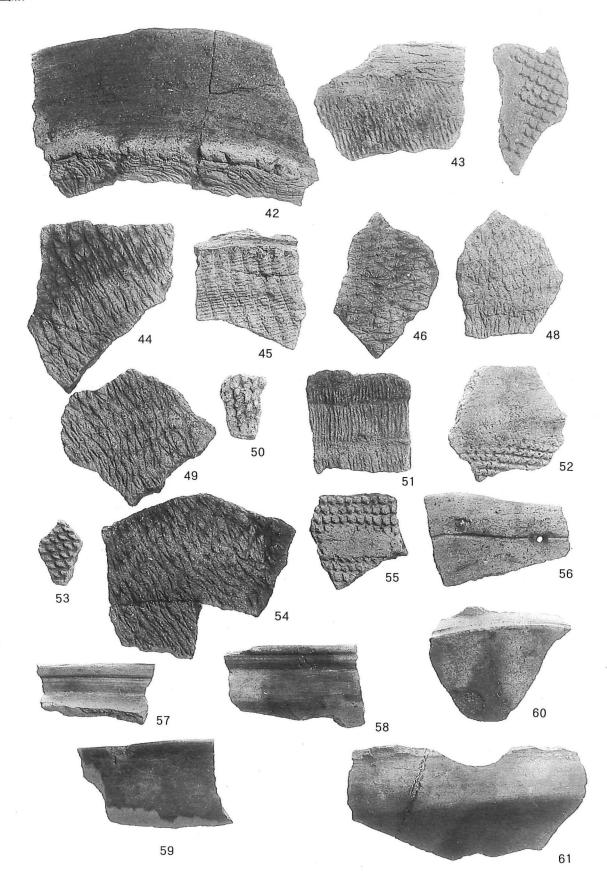
出土土器①



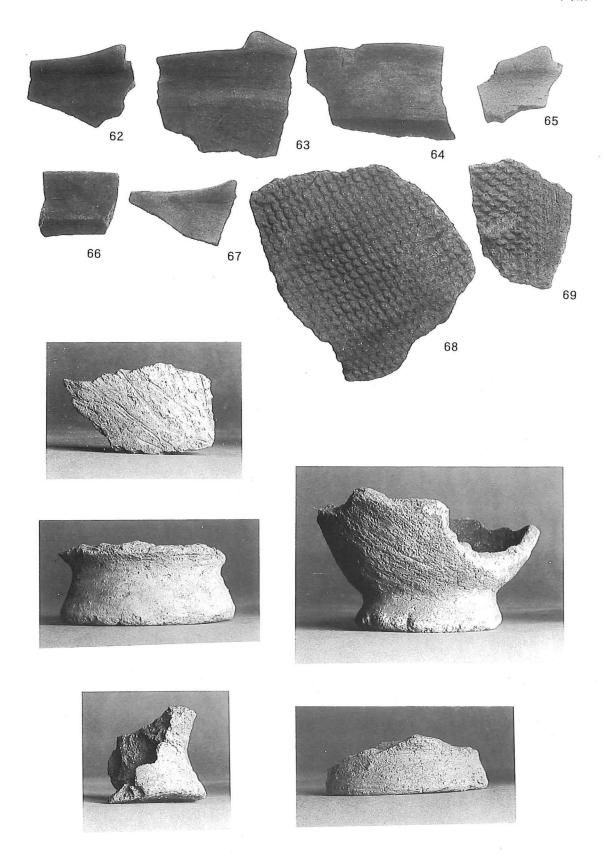
出土土器②



出土土器③



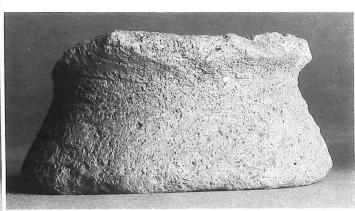
出土土器④

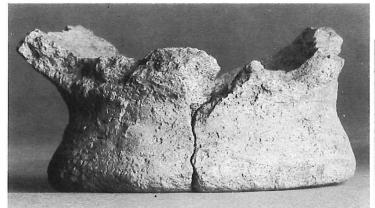


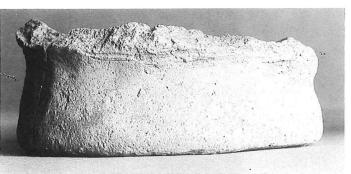
出土土器⑤

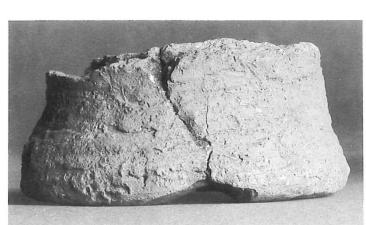
## 図版10





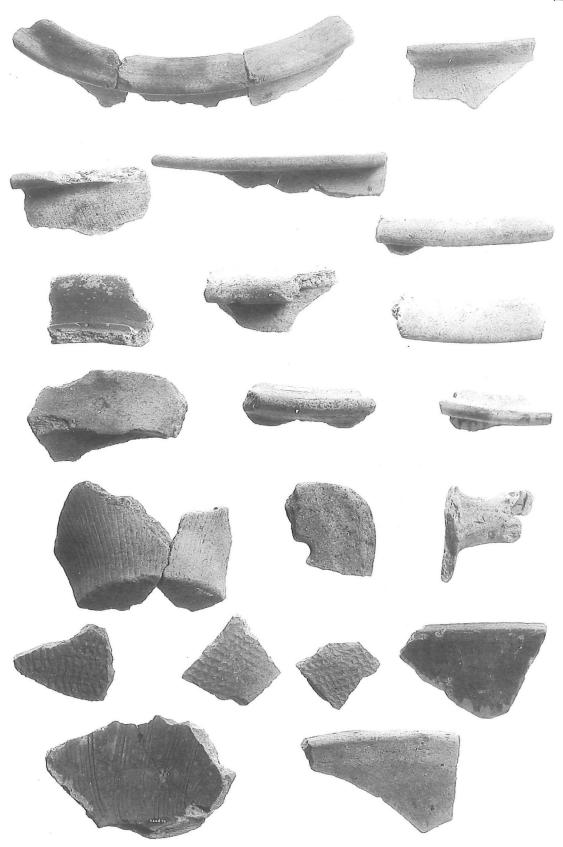




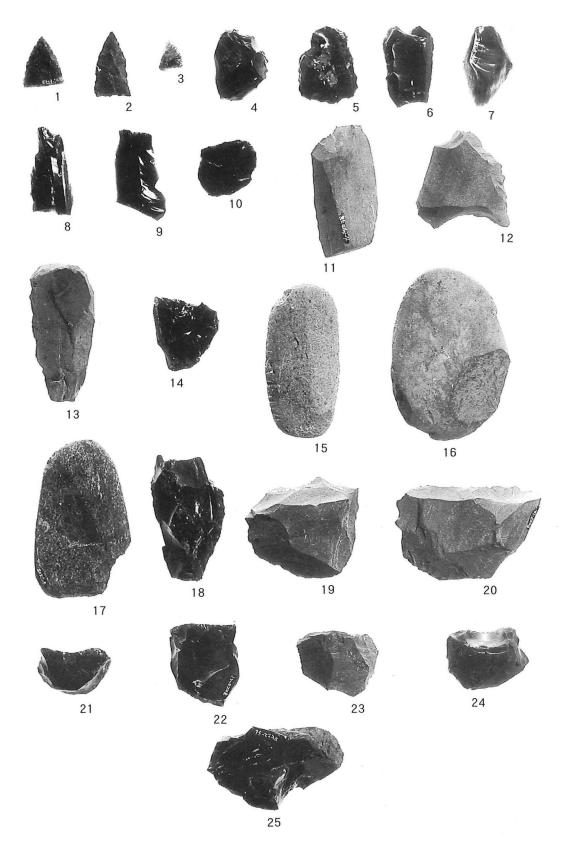




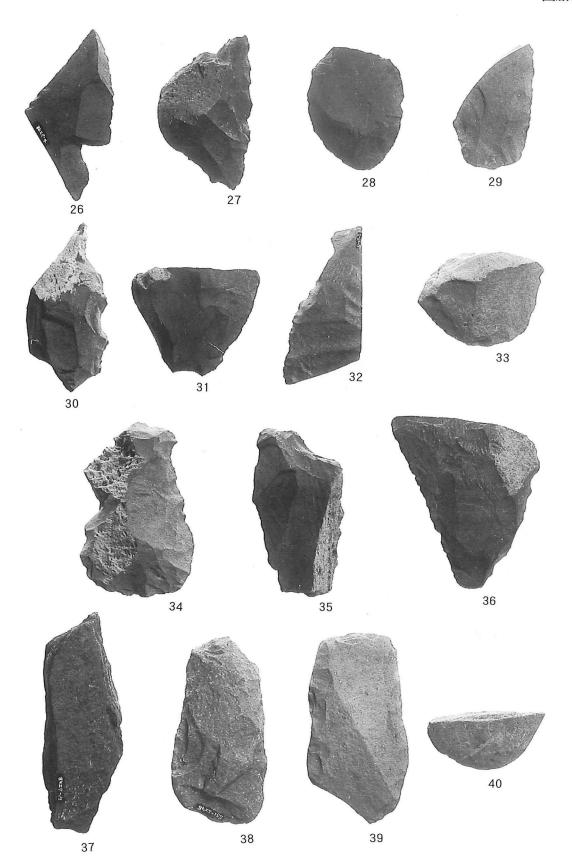
出土土器⑥



出土土器⑦

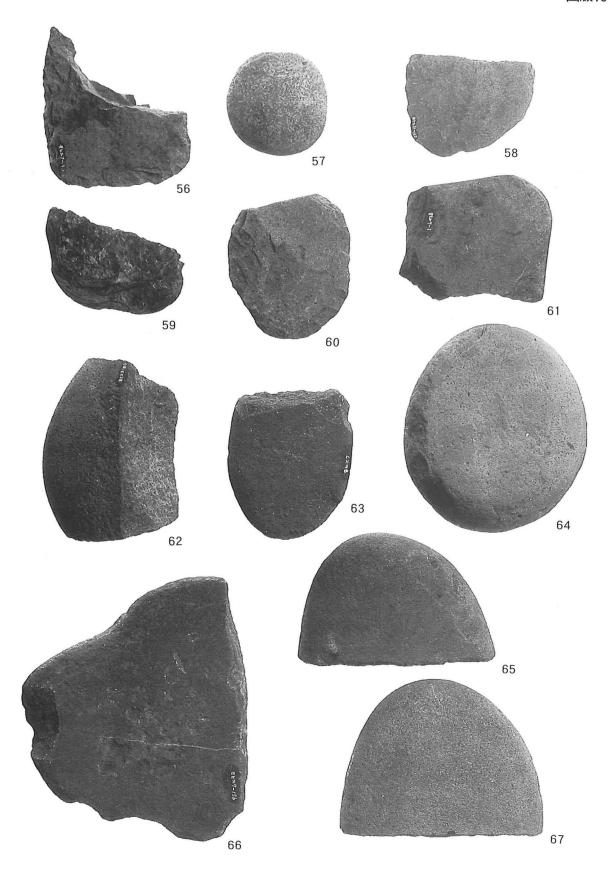


出土石器①



出土石器②

出土石器③



出土石器④

# 報告書抄録

ふりがっ	なしなたり	ばる い せ	: <del>*</del>								
書	名 稗田	京 遺 🌡	跡								
副書	名										
卷	欠							SALL COPPO			
シリーズ:	名 長崎県文	化財調	<b>全報告書</b>								
シリーズ番	号 第145	集									
編著者:	名 村 川	逸 朗	・藤原	宏 志・	長	岡	信 治	・田島	俊 彦		
編集機	関 長崎県教	育庁文(	上課	MATERIA (1988)							
所 在	地 〒850-08	61 長崎	奇県長崎市	7江戸町2-13							
発行年月	日 西暦 1	9984	手 3月3	1日				<b>Y</b>			
ふりがな	ふりか	<b>さ</b> な		— <b></b>	北		東 経	調査期間	調査面積	調査原因	
所収遺跡名	所 在	地	市町村	遺跡番号	0 /	"	0 / "	7800 a.1.	m²		
神田原遺跡	島 原 市 稗	笛鲂	03	92-74	4	2° 8′ 4″	130° 21′ 10″	19960703 ~ 19960712 19960909 ~ 19961101 19970307 ~ 19970314	1, 270	道路拡幅	
所収遺跡名	種別	主な	時代	主な遺れ	冓		主な	遺物	特言	事項	
稗田原遺跡	生活跡	縄文時	代	溝,柱穴		縄文	て時代・明	免期土器,	六ッ木火	砕流(3620±	
		弥生時	代		- 1				1	層よりイネの	
	中世							スキーユ, 石斧,打製	プラントオパールを検		
								口 元, 11 <del>数</del> 石, 砥 石,	μο		
								上師器,古			
						代~	中世の土	二師器等			
	The state of the s			Office Control of the							

## 長崎県文化財調査報告書 第145集

# 稗田原遺跡Ⅱ

平成10年3月31日

発 行長崎県教育委員会

長崎市江戸町2-13

印刷㈱クイックプリント

長崎市樺島町8番12号

# 正誤表

printerior-	wy recovery						and the state of t	MONTH AND DESCRIPTION OF THE PARTY OF THE PA	An Oliversky		
貢	行	誤					E				
		例言 四、本書の執筆は第 1 部を村川が		四、本書の執筆は村川が…							
1	9	…に所在する礫石原遺跡を初めと	して	K	所在了	する礫石	京原 遺	は跡をぬ	台めとし	, て <sup>'</sup>	
"	18	、本報告書中、第2部の自然科学…		、本報告書中、自然科学…							
"	19	学部長岡信治先生によると…		学部長岡信治・日本火山学会会員田島俊 彦両先生によると…							
38	19	、肯定的な方向へと迎向きつつ		、肯:	定的な	方向へ	と向は	きつつ			
47		試料 No. 3 イヌエビ		試料	No. 3	イヌビ	ı				
48		試料No.3 イヌエビ		試料	No. 3	イヌビ	エ				
24 ~ 26	第:	~4表 (表中、層位の記入漏れを別添の表に記載)									
35	誤	第5表 各区出土の石器①									
		番号 地区 屬位 器 種 石 質	最大	長 最	<b>支大幅</b> 1	最大厚 重	量	備	考		
		1     2     1     石     鏃     黒曜石       2     3     10     "     安山岩		.8	2.2	0.4	1.27			_	
	Œ	第5表 各区出土の石器①						単位は	CM, g		
		番号 層位 地区 器 種 石	質最	大長	最大幅	最大厚	重量	備	考		
		1 2 1 石 鏃 黒紀		1.8	2.2	0.4	1.27				
		2 3 10 " 安山	/岩	1.6	2.9	0.5	1.23				
36	誤	第6表 各区出土の石器②		CONTRACT CONTRACTOR						area de la companya d	
		番号 地区 層位 器 種 石質	<del></del>	<del></del>			重量	備	考	_	
		42 11 打製石斧 安山岩			10.65	1.75	92			_	
		43 1 2 " "		.35	7.1	2.1	111				
	Œ	第6表 各区出土の石器②						単位は	ca, g		
		番号 層位 地区 器 種 石	質量	大長	最大幅	最大厚	重量	備	考		
			LI岩·	3.65	10.65		92				
		43 1 2 "	,	5.35	- 7.1	2.1	111				

## 第2表 各区出土の土器①

77 6 20	م		-
番号	層位	地区·取上No.	-
1	3	3.278	
2	"	7.482	<u>_</u>
3	2	3 カクラン+155	; 
4	".	7.161	L
5	-	9.304	L
6	2	9.37	L
7	1	2.15	L
8	3	10.1266	L
9	2	7.283	
1 0	"	3.233	
1 1	"	7.356	Γ
1 2	1	2.16	
1 3	3	7.429	[
1 4	"	7.388	
1 5	"	10.1069	ſ
1 6	2	3.63	Γ
1 7	3	10.1348	Ī
18	1	2.165	
1 9	. 3	7.430	Ī
2 0	"	6.102	ľ
2 1	-	6.12	ľ
22	-	11.292	Γ
2 3	1	2.2	Ī
2 4	3	7.386	Γ
2 5	"	7.445	Γ
2 6	"	10.1118	
2 7	"	7.391	Γ
2 8	"	3.373	Ī
2 9	2	10.629	
3 0	3	3.365	ľ
3 1	"	10.1001	r
3 2	2	3.240	r
3 3	"	7.12	r
3 4	1	2.24	Ī
3 5	2	7.24	T
3 6	-	3.カクラン	1
3 7	2	7.328	t
3 8	3	3.365	1
3 9	"	3.356	1
4 0	-	9.362	t
4 1	1	2.9	t
	<u> </u>	I was proportioned by the same of the same	Ĺ

## 第3表 各区出土の土器②

番号	層位	地区·取上No.
4 2	<del>- </del>	3,313
4 3	<del></del>	7.259
4 4	+ -	7.317
4 5	+-	6.54
4 6	3	7.437
4 7	<del>  "</del>	7 .73
4 8		7 .260
4 9		7 .319
5 0	<del></del>	3.カクラン
5 1	3	7.338
5 2	"	3 .357
5 3	2	3.243
5 4	"	7 .312
5 5	3	7 .43
5 6	+	10.330
5 7	-	5 .15
5 8	-	6.5
5 9	2	7.320
6 0	3	3.282
6 1	2	10.246
6 2	3	7.21
6 3	-	6.29
6 4	2	7 .36
6 5	1	2.159
6 6	3	7.459
6 7	","	7.638
68	"	7.76
6 9	"	3.302
7 0	"	7.400
7 1		3.カクラ
7 2	2	9 .21
7 3	"	7.268
7 4	"	7.169
7 5	3	3.370
7 6	"	7.503
7 7		7.590
7 8	<del></del>	7.399
7 9	2	7.168
8 0		7.535
8 1	<del></del>	10.298
8 2		. 10.875

## 第4表 各区出土の土器③

番号	層位	地区·取上No.	
8 3	3	10.1043	
8 4	2	10.787	
8 5	-	11.244	
8 6	2	10.1114	
8 7	3	10.1110	
8 8	-	11.285	
8 9	2	10.208	
90	"	10.314	
9 1	"	10.1083	
92	-	11.246	
93	2	7.312	
94	"	3.70	
9 5	1 a	10.	
96	1 a	10	
9 7	1 a	10.	_
98	2	9.49.	_
9 9	1 a	4	_
100	1 a	4	_